

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答
1	清水区	70歳以上	その他	1	移転場所 地震・津波の被害、対策	1	反対です。5年前に清水庁舎の移転新築計画に関する住民投票条例の制定を求める署名に取り組みましたが、多くの人は「なぜ、津波浸水想定区域へ庁舎を移転するのか?」と疑問を持ちながらの署名でした。NHKなどでは連日「いのちを守る防災ボイス」を報道しています。しかも南海トラフ巨大地震の発生確率は20年以内等の報道もあります。無謀な計画は撤回すべきです。				○		南海トラフ巨大地震の発生確率について、政府の地震調査委員会が2025年9月に発表した時間予測モデルによる発生確率「今後30年間の発生確率60～90%程度以上」はレベル1の地震の発生確率と見直すのが妥当であり、「南海トラフ巨大地震(レベル2地震)」の発生確率と見なすべきではないと考えています。 新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 南海トラフ巨大地震の発生確率の意味を正しく理解した上で、評価することが必要であり、それを理解しないと誤った判断を行うこととなります。そのため、『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf
				2	事業の進め方	3	難波市長は11月4日の記者会見で清水庁舎移転先を言い、その日からパブリックコメントを実施すると発表しましたが、たまたまニュースを見ていたので知ることができましたが、あまりにも拙速な進め方ではないか、住民の声をよく聞くというのなら、パブコメの周知も時間をもっとかけて行うべきではないですか。自治体の本来的役割は、住民のいのちと暮らしを守ることでないですか!十分な説明会を求めます。高齢化しているのですめ細かく行ってください。					○	パブリックコメントの周知については、11月4日の記者会見のほか、静岡市ホームページでの公開、市民の皆さまにご利用いただいている各区の庁舎、区役所の市政情報コーナー、生涯学習交流館、生涯学習センター等に資料を配架し、多くの方の目に留まるよう対応しました。また、11月11日に市民説明会を実施し、市の整備方針(案)をご説明するとともに、パブリックコメントへのご意見を募りました。
2	清水区	60代	自営業	3	移転場所 整備方法	1	11月11日の市民説明会に参加させていただきました。資料説明、市長さんからのお話も非常にわかりやすく拝聴させていただきました。いつ来るかわからない災害を考えている市民がたくさんいらっしゃるなら、いち早く進めていただくことを希望します。浸水・電力についても市長さんからのご説明もいただき、納得できました。利便性やJR清水駅付近の活性化を期待し、この(案)に賛成いたします。					○	速やかに新庁舎を整備し、清水駅東口の防災力を高めるとともに、JR清水駅周辺への都市機能集約を進め、清水のまちづくりを前進させてまいります。
3	清水区	70歳以上	専業主婦(夫)	4	移転場所 整備方法	1	私の家族は、高齢者の主人(筋ジムの身体障害者)、娘は統合失調症で息子もうつ病、発達障害を持つ30代です。現在もこの三人を車に乗せて市役所のもろもろの手続きに行きます。そのことを考えると現在の場所にあるのがベストです。将来の子供達のことを考えますと東口は遠すぎますし、タクシー利用となり、お金もかかります。現在のところが環境もよく駐車場もあるので今のままでいいかと。				○	清水庁舎へのアクセスについては、現在地よりも公共交通の結節点であるJR清水駅周辺の方が多くの市民の皆さんにとって利便性が高まるものと考えております。現庁舎はお車でお越しのことですので、新庁舎の整備にあたっては駅西口にベドストリアンデッキでJR清水駅・新庁舎と連結する駐車場を整備いたします。なお、車いす利用者用駐車場につきましては、1階に配置し、すぐ近くのエレベーターで2階以上へ上がれる計画といたします。	
				5	求める機能 駐車場	2	・コミュニケーションホール ・身障者のふれあいの場 ・喫茶(カフェスペースの充実) ・広い駐車場				○	庁舎の詳細を検討する際の参考とさせていただきます。	
				6	求める機能	3	バリアフリーの充実 以前主人を車いすでスロープを押していると車いすの下にもぐり込んでしまい、必死の思いで足をふんばり、大惨事にならず回避しました。緩やかなスロープをお願いします。	○	どのような方も円滑に庁舎が利用できるよう、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、スロープ等の機能も含め、設計してまいります。				
4	清水区	70歳以上	その他	7	移転場所 整備方法	1	反対					○	パブリックコメント等でいただいた皆様のご意見を踏まえ、新庁舎を整備し、清水駅東口の防災力を高めるとともに、JR清水駅周辺への都市機能集約を進め、清水のまちづくりを前進させてまいります。
5	清水区	70歳以上	パート・アルバイト	8	移転場所 整備方法	1	津波浸水警戒区域への移転は反対です。イベント広場をつぶしたら、まちのにぎわいにはなりません。安全のことばかりではなく、まちづくり百年の計からも考えるべきです。					○	現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。
				9	移転場所 整備方法	2	移転するなら市民全員の賛同の得られる場所にするべきです。そのためには、時間をかけて議論すべきだと思います。当面は、現地改修でいくべきだと思います。					○	清水庁舎の整備検討においては、改修案と新築案の精緻な比較を行い、性能面と価格面の両面で新築優位であることから、まず、市の方針案として「清水駅東口公園への移転新築」案を公表し、パブリックコメントと来庁者アンケートを行いました。来庁者アンケートでは整備方針について「新築」または「改修」を選択した回答者のうち、「新築」は85.3%、「改修」は14.7%という結果となり、本パブリックコメントによる市民意見聴取の結果を踏まえ、今回決定を行ったところです。 今後も、広く市民の皆さんにご理解いただけるよう、様々な機会を通じて当事業についての説明を引き続き行ってまいります。
6	葵区	50代	その他	10	移転場所 整備方法	1	清水駅南につくるとのことですが、市長さんがいっている清水の活性化は今まで庁舎をたてても町が繁栄していないので、駅南につくっても町の活性化にはならないと思います。なぜ庁舎をつくりたいのか、駅南に作る必要性がどこにあるのか理解できません。なぜ、駅南につくるとをすすめるのでしょうか。					○	清水のまちづくりは、国の重点的施策でも示されているとおり「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」とした「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方に基いています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。
				11	整備方法	2	庁舎にいろんなものが入るとの記事でしたが、清水テルサやえじりあ、駅前、清水銀座の建物の中に入ってもいいだろうし、たくさん入るの課が入るのではないかと考えているので、新庁舎をつくる必要はないと思います。					○	現在の清水庁舎の機能を配置するためには、およそ18,000㎡を確保する必要があり、また、市民の皆さんの利便性を考えると、区役所や市税事務所の機能は必ず一カ所に配置する必要があります。以上を踏まえ、清水の公共施設の空きスペースにそれらの機能配置はできませんので、新庁舎を整備する必要があると考えております。 なお、民間の空き店舗等への庁舎機能の分散については、災害対応を含む行政サービスの継続性や業務効率性(局単位で少なくともおよそ100人ほどの職員を近接して配置する必要があります)を考慮すると、現実的ではないと考えております。

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答
7	清水区	70歳以上	その他	12	移転場所	1	市民の命を考えたら絶対反対。市民の命を守らなければならない。行政の長である難波市長が、命の危険をおびやかすような場所に大事な区役所を移すと言う事は、市民の命を守ろうと言う意識がないとみている。市民の命より新しい街作りの方が大事だと言うことを示していると思う。どんな街も人あつてというのが街であつて、人の命が脅かされるかもしれないと言う街を作っても意味はない。 しかも高額な税金を使っている。そんなこと自体許されるものではない。市民の命を新しい街作り(市長が固執しているだけだと思うか)とどちらが大事ですか？答えてほしい。南海トラフ地震が予想されているのに、海の近くに区役所を移転するなんて狂気の沙汰だ。新しい街作りにのめりこまないで、市民の命を守るほうに考えを改めてください。南海トラフ地震、巨大津波がきたら、どんな対策をとっても犠牲者はでます。出ない方法は、標高の高い所に置くしかない。				○		<p>新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>
				13	庁舎規模	2	人口減対策を取った大きさの建物にする。想像ですが、東口移転か他の地域の高台移転が結論でてないですが、いづれにしても、人口減は進んでいます。清水区の10年後人口は何人になり、20年後は何人になるか予想でき、その時区役所で働く人たちは何人必要か？更にAIの発達で、職員の仕事を変わることができたら、今の職員数約1千人から何名になるのか？葵区、駿河区でも人口減は進む。 葵区と駿河区でそれぞれ1フロアがいらなくなれば、2フロア分を清水で使わせてもらう。この件を見越して2フロアを減築する。更に学校統合で校舎があげばそこを使わせてもらう手もある。現区役所は空になるので、1、2、3階でだけ残して撤去(工事費はかかるが)要は、人口減とAIの発達(予想もできないが)を見越しての設計にすべきだと思う。			○		<p>静岡市の将来人口については、独自に推計し、市HPで公表しています。</p> <p><静岡市将来人口の独自推計> https://www.city.shizuoka.lg.jp/s2934/s013069.html</p> <p>新庁舎供用開始の数年後において、市職員や来庁者の数が現在と比較し大きく減少することはありませんが、将来的には人口減少に伴いその数も減ることが見込まれる中、ご意見をいただきましてありがとうございます。こうした状況変化に柔軟に対応できるよう、将来的な公共資産マネジメントも見据え、可変性の高い設計とするなどの対応を行う必要があると考えています。市全体として適切な施設管理を行ってまいります。</p>	
				14	移転場所	3	市長が、新しい庁舎は、桜ヶ丘病院の跡地としたい、というなら、市民の大半の合意は取れて、市長が記者会見のおと津波のことを熱心に説明してきた時間は少ない。無駄な時間だった。私ら、関心が強い人達も、わざわざ説明会に足を運ぶことなく、またパブコメを考える必要なかった。市民の私的な時間まで奪ってしまった。					○	<p>まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。</p> <p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>そのため、移転先は、桜ヶ丘病院跡地が最適という考え方は一つの意見としてありますが、市としては最適な場所と考えておりません。</p> <p>なお、2025年12月に実施した清水庁舎来庁者アンケートでは、整備方針について回答者の69.0%が「清水駅東口公園への新築」を選択し、「現庁舎の改修」は11.9%、「どちらとも言えない」が19.1%という結果でした。</p> <p>パブリックコメント等でいただいた市民の皆さんのご意見を踏まえ、災害に強く市民利便性が高い庁舎を整備し、清水のまちづくりを前進してまいります。</p>
				15	移転場所	3	新しい街にどんだけメリットがあるか力説しても、人の命を上回るメリットなどない。南海トラフ地震、巨大津波がきたら、どんな対策をとっていても犠牲者はでます。でない方法は、標高の高い場所に置くしかない。だから桜ヶ丘病院の跡地に移せ。					○	<p>新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>
				16	その他	3	桜ヶ丘病院を今の所に移したのは、難波市長の強引な、やり方があったのではと勘繰りたくります。JR清水駅のデッキからさくら病院へ行くデッキを工事していた現場を見てそう思った。この工事費は税金ですか？さくら病院がだしたのですか。					○	<p>桜ヶ丘病院の移転は2020年12月に市とJCHOで合意しました。現市長は2023年4月に市長に就任しましたので、桜ヶ丘病院の移転について意思決定を行ったのは難波現市長ではありません。</p> <p>ペDESTリアンデッキ整備事業は、清水のみなどまちづくり公民連携協議会による「清水駅東口・江尻地区ガイドプラン」を踏まえ、これからのみなどまちづくりの一環として歩行者の回遊性向上のため整備を進め、清水さくら病院の開院に合わせ、一部、供用を開始しています。工事費については国の交付金を活用し、市の事業として実施しております。</p>

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答
7	清水区	70歳以上	その他	17	その他	3	清水庁舎の整備方針案のどの部分…とありますが、この清水庁舎の整備方針案はどれを指すのか？市のHPも色々できます。せめて検索言葉かURLを入れてほしい。					○	整備方針案は、2025年度清水庁舎整備の方針(案)の「意見募集用紙」や「パブリックコメント資料」に記載の内容のとおりです。また意見募集用紙には、直接HPへとアクセスできるQRコードを添付しておりますので、そちらからご確認ください。
				18	事業の進め方	3	先に市民に回覧板で周知すべきです。その回覧板には、B4で1面に使うやり方。高齢者は、字が小さいと読めないし、読む気力もない。説明会にきたのは、約100人、有権者(19万)の0.05%でしかない。やる順番がおかしいのと、結論を出すのが早急すぎる。移転ニュースを聴いたが、中身は分からない。メリット、デメリットが分からない。等々市民レベルでの議論がまだまだ進んでいません。故に、住民投票をすると市長が決めれば、市民も判断を迫られるので学習するでしょう。議員が移転賛成多数ならOKという判断はしないでほしい。市民の意識をあげるには、住民投票しかない。市民の関心が盛り上がらないうちに結論出してしまえという態度に見える。その結果地震が来て津波がきて犠牲者が出たら、市長は引退していても健在ならその責任を追求します。					○	「清水庁舎は将来的にJR清水駅周辺へ移転し、同地区に都市機能を集約することで経済活性化を促し、清水のまちを再生する」という大きな市の方針は、2017年度の「新清水庁舎建設検討委員会」において、関連する市のまちづくり方針を踏まえて議論を行い「新清水庁舎建設基本構想」として取りまとめ、パブリックコメントにより市民の皆さまからご意見を伺った上で決定しております。 今回の判断は、桜ヶ丘病院の移転等により「20年程度の使用を想定した改修」としていた整備方針を「現清水庁舎の耐震性能(整備費用)」「JR清水駅東口のまちづくりの進展」の大きな状況変化を踏まえ、改めて比較検討の結果「新築案」が優位であると判断したものです。検討の経緯は2024年度に3度の市長記者会見と2度の市民説明会で現清水庁舎の耐震性能や改修方法についてその時点の状況を公表し、2025年の11月4日に検討結果を市長記者会見で発表、11月11日に市民説明会を開催し、11月4日～12月5日パブリックコメントを実施しました。また、担当部局においてはその間も随時市民の皆さまや市民団体の皆さまから寄せられた意見やご質問に對話を重ね、意見交換を行っていただいております。本事業についてさらなる不明な点がございましたら、お問合せをいただけますと幸いです。 なお、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するよう設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf
				19	民間機能	3	1階分か2階分の床を貸せるから、建設費を出してくれということですね。が、会社は利益がでなければ撤退する。撤退したら損害賠償を請求することを事前に決めても、会社は損切して撤退します。この件のリスクをどう考えていますか？					○	新庁舎を含む複合施設は民間事業者が建設し、建物の完成後、庁舎機能分の建物は市が買い取り管理運営し、民間機能は民間事業者が所有し管理運営する計画としています。 合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり具体的な機能を検討してまいります。 また、これらの事業を行うに当たっては、関係法令に則り適切な手続きを行ってまいります。
				20	その他	3	さくら病院が、なぜ津波が来ると予想される所に移ったのか？人の命を預かるという医師が、信じられなかった。大内に建設する予定をやめて市長に相談した。という所まで記憶にあるが、今回のことで、市長の働きかけがあった。この時点から市長は、新しい街作りで情熱を燃やして、津波により人命が失われるということについて、なんの恐れも湧かなかつたと推察される。受けた医院長も駄目男だと思う。二人とも人としてやってはいけないことをした。声を大にしていいたい。二人とも反省しろ、反省をだ。					○	桜ヶ丘病院の移転は2020年12月に市とJCHOで合意しました。現市長は2023年4月に市長に就任しましたので、桜ヶ丘病院の移転について意思決定を行ったのは現市長ではありません。 さくら病院に関する意見ですので、回答は控えさせていただきます。
				21	移転場所	3	移転先は、桜ヶ丘病院跡地という最適な場所があります。そこに移転してください。駐車場もあります。交通の便が悪いとか、街を作れないとかの問題はあるかもしれませんが、解決できる問題です。津波により命が失われたら、解決できません、自明の理です。					○	移転先は、桜ヶ丘病院跡地が最適という考え方は一つの意見としてありますが、市としては最適な場所と考えておりません。
				22	地震・津波の被害、対策	3	港に新しい街ができ、新しい庁舎ができて巨大な地震、津波で大きな被害が予想されます。区役所の業務は停止し、それによる損失を計算したのでしょうか？2011年の3.11の地震により東北の自治体は、業務が停止したと思います。どんな損失がでたか調べて公表してください。AIに聞いたら、驚くほどの損害です。何度も言いますが、区役所移転で津波にあい、失った命は戻りません。市長の頭は、新しい街、街、街で津波による人身被害は頭のないみたいです。それは、自分は災害のプロだ、という自負から、自分の力を過大評価していませんか？					○	新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するよう設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え						
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答	
7	清水区	70歳以上	その他	23	パブリックコメント 事業の進め方	3	市民から寄せられたパブリックコメントは、全てそのままの形で公表してください。PDFにして載せてください。職員が勝手に編集できないようにしてください。全文を市民グループで手分けして分類し、まとめます。パブコメで、反対意見が多かったら、市長は、自分の案を撤回してくれますか？大事なことは市民みずから決める住民投票をしてください。						○	パブリックコメントによりいただいたご意見は、提出された全ての意見について整理区分を示した上で公表を予定しております。 また、今後、パブリックコメントでいただいたご意見を踏まえ、議会でご議論をいただき、事業決定を行ってまいります。 なお、住民投票は、静岡市自治基本条例第25条で「市政の特に重要な事項について、広く市民の意見の総意を把握するため、条例で定めるところにより、住民投票を実施できる。」とされています。 清水庁舎整備事業においては、市民説明会やパブリックコメント、清水庁舎での来庁者アンケートによって市民意見を聴取しているため、実施することはありません。
				24	地震・津波の被害、対策	3	河岸の市周辺を歩いて驚きました。まず河岸の市の駐車場が約3倍に広がっていました。まだ使えないようでした。右に向かって歩くと船が多数泊っていて、水産庁の船もありました。地上には、津波避難タワーがありません。避難ビルはありましたが、観光に来た人が、地震、津波でパニックになっている時、1.5m四方の看板に眼が行くと思いますか？近くには大きな建物がありますが、道路を渡らないといけな。必死になって逃げようとしている時に、止まってくれる車はありません。市長は説明会の時に河岸の市の賑わいを喜んでいました。が、津波避難対策はわすれたのですか？ここでも人の命を守ることを優先できない市長として烙印を押したい。						○	津波避難タワーは、津波からの立退き避難が困難な地域で、周辺に避難に適した堅牢な建物や高台などが無い場合に建設します。 なお、河岸の市からは、ベデストリアンデッキを活用すれば、道路を直接渡ることなく、JR清水駅へ避難が可能です。
				25	地震・津波の被害、対策	3	河岸の市の海側にある岸壁の幅は狭いです。ここに、津波防波堤をどう作るのか？疑問がずっとありました。いろいろ調べたら、国土交通省港湾局が出した防波堤の対津波設計ガイドが2023年にだしたその中に図がありました。この図からみたら、清水の場合は地上ではなく海の中にしかできないですね。ガイドラインをだして12年経過しても工事にしき影もない。こんなんで河岸の市の駐車場の拡大＝お店今以上の人達を津波から守れますか？この工事の青写真を示してください。						○	江尻地区の防潮堤は、2015年度に県が策定した「清水港海岸 江尻・日の出地区津波防護施設整備計画」に基づき、整備主体である県により計画的に整備が進められています。この計画において、現時点では、江尻地区の駿河湾フェリー乗降場付近からジョイルミルズ南側までの防潮堤約1.9km区間について、完了時期は2032年度を見込んでいます。2025年度は、河岸の市前の約260m区間について実施設計を行い、2026年度は、埋立てに伴う法定手続き等を実施する予定と伺っております。具体的な構造や完成形については、現在進められている実施設計の中で整理されることとなり、内容が固まり次第、県から説明がなされる予定です。
				26	地震・津波の被害、対策	3	内閣府南海トラフの巨大地震による最大震度 最大津波高さ 被害想定図によると、清水港の津波高さは11mです。これを防ぐ津波防潮堤を作らねば人命を守れませんね。津波についてはプロの市長が、説明会の時は説明なしでした。防潮堤をつくるが高さは2mと聞いたが聞き間違いですか？内閣府資料に基づいて説明を求めます。						○	政府の南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会報告書(2025年3月31日)では、海岸の津波高は、海岸線から概ね20～30m沖合の津波の高さとしています。 静岡市清水区の最大津波高は、駒越地区の増で約11mです。なお、内閣府が公表している津波のケース1のデータでは、清水港内での津波高は「11m」ではなく4～5mとされており、河岸の市周辺の津波高は4mです。 防潮堤の高さは、海面からの標高(T.P.)で表す場合と、建設場所の地盤からの高さ(標高との差分)で表す場合があります。江尻ふ頭周辺の防潮堤の整備高さは標高(T.P.)4mです。建設場所の標高(T.P.)が2mであれば、防潮堤の地上からの高さは、その差分の2mとなります。詳細については、以下のHPをご参照ください。 <内閣府被害想定> 南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会報告書(2025年3月31日公表) https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/kento_wg/index.html 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumeii1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumeii1125.pdf
				27	まちづくり 現庁舎の跡地利用 地震・津波の被害、対策 移転場所	3	全体像を示してください。また区役所の移転だけです。 イ:区役所の建物東口に新築移転 ロ:空いた現区役所は公文書の保管場所にするのか ハ:現駐車場はどうするのか ニ:エネオスの新しい街はどんな形になり、いくら税金をかけるのか？費用対効果はどうか？ 特にサッカー場はいくらかかり、税金でいくら出ていくのか？2万席という巨大な会場へ行く時や、試合が終われば一気に出る時地震が来たらどうするか？という防災面でも綿密な検討が必要です。 ホ:清水港の津波防波堤を地上に据えるスペースはないようだが、どうするのか？ これらすべて関連している以上セットです。すべてを明らかにして市民の議論を経て、住民投票して判断すべきものだと思う。 現時点では、また新築移転の説明しか出ていません。桜が丘病院跡地に移転したいという案なら、市民は賛成してくれると思うし、市長が熱心に津波のことを話す必要はないです。要するに市長と職員の貴重な時間の無駄をしてきたということなんです。そんな感じがします。						○	現清水庁舎については、2023年度の精緻な耐震診断より精度高く耐震性能が把握できました。耐震改修や設備改修には多額の費用がかかる一方、建物自体は大地震時も倒壊の危険性は低いことから、耐震改修や大幅な設備改修を行わず、必要な部分改修を行ったうえで、利用方法や用途について行政利用に加え民間活用も検討し活用することとします。現駐車場についても併せて検討します。 まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 また、ENEOS株式会社用地の活用については、2月17日の市長記者会見において、利活用方針を公表したところです。 江尻地区の防潮堤整備につきましては、現在、事業主体である県において具体的な整備方法の検討が進められている段階です。市として県から伺っている内容では、陸側(地上)には十分な用地が確保できないことから、海側に張り出す形で防潮堤を整備すると聞いております。その場合、海域側に構造物を設けることとなるため、地盤改良やケーソン等の構造物を用いた整備が想定されております。 住民投票につきましては、静岡市自治基本条例第25条で「市政の特に重要な事項について、広く市民の意見の総意を把握するため、条例で定めるところにより、住民投票を実施できる。」とされています。今回の方針(案)については、「パブリックコメントの実施」「説明会での意見交換」に加え、市民の皆さんのご意見を広く把握するために「来庁者アンケート」等を実施するなど、複数の手法で幅広く市民の皆さんのご意見をお聞きいたしました。そのため、住民投票を実施することはありません。 なお、2025年12月に実施した清水庁舎来庁者アンケートでは、整備方針について「回答者の69.0%が「清水駅東口公園への新築」を選択し、「現庁舎の改修」は11.9%、「どちらとも言えない」が19.1%という結果でした。

回答者No	住所	年齢	職業	意見No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					回答		
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)			
7	清水区	70歳以上	その他	28	地震・津波の被害、対策	3	11/25に発表された「レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態」と「発生形態を理解した上での対処方法」についての基礎情報「第2編 清水中心市街地における地震・津波への適切な対応・行動」を読むと、ますます清水区庁舎の移転はすべきではないと強く思った。9ページのハザードマップの「浸水想定は、レベル2地震・津波時は、「防波堤や防潮堤による防護効果はない」として浸水域を計算している。でしたら、11月11日に示した東口の浸水予想、1.9～2.4mは、清水港にくると予想されている11mの津波で防潮堤があつての浸水ではないのか？どんな悪い条件での浸水か？静岡県においては、「防潮堤はレベル1地震による津波(レベル1津波)からの浸水被害を防ぐことを基本としている。レベル2の地震による津波(レベル2津波)については、防波堤や防潮堤の粘り強い化を行い、津波のエネルギーを減衰させ、浸水域を縮小させて被害を軽減する取組を進めている。」とある。11/25の資料では、防護効果がないと言いながらどちらが正しいのか。						○	政府の南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会報告書(2025年3月31日)では、海岸の津波高は、海岸線から概ね20～30m沖合の津波の高さとしています。静岡市清水区の最大津波高は、駒越地区の増で約11mです。なお、内閣府が公表している津波のケース1のデータでは、清水港内での津波高は「11m」ではなく4～5mとされており、河岸の市周辺の津波高は4mです。 ハザードマップの浸水域は、防波堤や防潮堤の防護効果を考慮しない最悪条件で静岡県が計算しています。11月11日に示した「清水駅東口の浸水予測1.9～2.4m」は、内閣府が想定する津波高(清水区増で高さ11m)の場合、かつ、防潮堤が機能しない場合における、清水駅東口の想定浸水深です。 <内閣府被害想定> 南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会報告書(2025年3月31日公表) https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/kento/wg/index.html <津波ハザードマップ> https://city.shizuoka.geocloud.jp/webgis/?z=17&l=35.022822%2C138.489828&t=roadmap&mp=103&op=70&ot=1&vf=001c07	
				29	地震・津波の被害、対策	3	11/25に発表された「レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態」と「発生形態を理解した上での対処方法」についての基礎情報「第2編 清水中心市街地における地震・津波への適切な対応・行動」では、37ページに、ペDESTリアンデッキに5,000人避難し、滞留とあるが、サッカー場に2満席満杯の時、市長が夢見るデイスニランドみたいな場所になった時に何名が避難できるのか？						○	ENEOS株式会社用地については、2月17日の市長記者会見でその利活用の方針を発表したところです。災害時の対応については、具体的な機能が決定された後、詳細を判断してまいります。	
				30	地震・津波の被害、対策 移転場所	3	人的被害は、特にレベル2地震において、津波による死者数が全体の8割以上を占める(20ページにあり)これがかかっていてなおも、移転させるのは人殺しに等しい行為ではないか。							○	最悪の津波が最悪の状態が発生した際であっても、新庁舎は重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、来庁者はもとより周辺にいる人々の生命を守る仕様とし、同地区の防災力を高めてまいります。
				31	災害時の区役所業務の 停滞	3	南海トラフ地震で、半割れと政府が宣言したとき、清水区役所の仕事はどうなるのか？津波が怖くて来れない状態が何日続くのか？高台に移設していたら、東口に移転するよりずっと良い。業務の停滞が起きない。停滞した時の経済損失は計算していますか。計算してください。							○	新庁舎は最悪の津波が最悪の状態が発生した際、「1 大地震発生からおよそ10分後まで」「2 大地震発生からおよそ3日目まで」は「緊急避難場所」としての機能を担い、「3 大地震発生からおよそ4日目以降」は「警報解除後は避難者に帰宅や避難所への移動を促し、緊急避難場所としての役割を終了」し「復旧支援拠点(避難所の後方支援)」としての機能を開始します。 津波警報が解除され、道路啓開が実施されれば、新庁舎は業務継続を行える構造となっています。被災状況により、清水区役所における通常の窓口業務が一定期間閉鎖となる場合には、津波被害がない豪区役所や駿河区役所等のお手続きや、その期間の長さによっては他の公共施設での臨時窓口開設等の代替手段を状況に応じて検討してまいります。
8	清水区	70歳以上	パート・アルバイト	32	移転場所	1	反対です。海岸が近く問題です						○	新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf	
				33	移転場所	2	安全な場所へ						○	新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf	

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					回答					
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)						
9	清水区	70歳以上	自営業	34	地震・津波の被害、対策	1	南海トラフ地震の発生確率は30年以内に60～90%と言われている。1000年に一度というその根拠はなにか？						○	南海トラフ巨大地震の発生確率について、政府の地震調査委員会が2025年9月に発表した時間予測モデルによる発生確率「今後30年間の発生確率60～90%程度以上」はレベル1の地震の発生確率と見なすが妥当であり、「南海トラフ巨大地震(レベル2地震)」の発生確率と見なすべきではないと考えています。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf なお、「南海トラフ巨大地震(レベル2地震)」(最大クラスの地震)の発生確率について、政府の「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)」(地震調査研究推進本部地震調査委員会、2025.9)では、「発生頻度は、100～200年の間隔で繰り返し起きている大地震に比べ、一桁以上低いと考えられる」としています。				
				35	地震・津波の被害、対策	1	清水港で予想されている津波高は11m。最大津波高0.1～0.6mの根拠はなにか？							○	政府の南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討報告書(2025年3月31日)では、海岸の津波高は、海岸線から概ね20～30m沖合の津波の高さとしています。 静岡市清水区の最大津波高は、駒越地区の増で約11mです。なお、内閣府が公表している津波のケース1のデータでは、清水港内での津波高は「11m」ではなく4～5mとされており、河岸の市周辺の津波高は4mです。 なお、静岡県第4次地震被害想定では、清水港内(海上)で想定されている津波高さは、レベル2津波で4～5m、レベル1津波で約3mとされています。 記者説明資料p70にある「0.1～0.6m」は、レベル1津波における、清水駅東口広場(陸上)の想定浸水深です。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf			
				36	にぎわい	1	「清水庁舎は街のにぎわいの拠点」ということについて、役所に来るほとんどの人は用事が済めばとっとと帰る。賑わいとはあまり関係ない。駅周辺のにぎわいは役所なしで考えるべきではないか。								○	今清水庁舎を利用する人々は、ご意見のとおり、清水庁舎での用事が済めば、お帰りになることがほとんどであると思います。 新たに清水駅東口公園(旧清水駅前広場)へ移転することで、利便性の向上が見込まれると考えております。 また、にぎわいにつきましては、庁舎機能単体が賑わいを創出するのではなく、来庁者が、庁舎での用事を済ませた後に、周辺施設を利用する方が出てくると考えております。		
				37	地震・津波の被害、対策 移転場所	1	「津波が心配なら清水駅周辺には住めない」という発言について、あまりにも飛躍した思考。現に民間や民家もある。住んでいる人にもあまりにも失礼。避難タワーなどの防災対策を作るのが市の役目。役所や病院などの公共施設を津波浸水域に作るのは問題。									○	ご意見にあるような発言はしておりません。 11月11日の市民説明会では、市民の方からのご意見で「さくら病院に通っている人は非常に不安がっています。なぜか、津波がいつ来るかわからないからです。」という発言に対し、市長は「それだけ不安であれば、JR清水駅のところに誰も行けないです。河岸の市になんであんなに人が行っているのでしょうか。あれほど駅前にあるところはないからです。」と回答いたしました。	
				38	まちづくり 公園・イベント広場	1	駅周辺に都市機能を集めるのは、まちづくりの基本中の基本。「にぎわい」をつくるというが、貴重なイベント広場がなくなればかえって「にぎわい」は少なくなる。それだけでなく公園や広場の少ない清水駅東口広場は貴重なスペースであり、いろいろなイベントも多く開催している。市民の広場を奪うな！イベントの開催ができなくなる。JRで来る人にはアクセスはいいが、バスや徒歩で来る人はJR駅を通過して結構距離がある現庁舎のどこがアクセスが悪いのか。(新清水駅から4～5分 さつき通りにはバス停がある)									○	まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。	
				39	駐車場	1	どこに駐車場を確保するのか、マリナート、テルサなどでイベント開催時には周辺駐車場は満車状態。駐車場との距離が遠くなれば来庁者は不便。ピロティ1階駐車場に津波がくると海水と反応して爆発火災のおそれあり。庁舎上階部へ延焼、役所機能を果たせない。駐車場だけではなく、東口広場はあまりにも狭い。市役所庁舎としてはあまりにも不適合。									○	いただいたご意見を踏まえ、JR清水駅西口に駐車場を新築し、駐車場、駅・新庁舎をペDESTリアンデッキで連結する計画とします。既設の清水駅東口駐車場を含め、エリア全体で利便性の高い駐車場を確保します。	
				40	現庁舎の耐震性	1	説明が不十分。本震では大丈夫。余震で被害？										○	現庁舎の耐震性能につきましては、2023年度に実施した「第3段階目の診断」結果及び、「耐震評定」結果から以下のように考えております。 ・「庁舎の耐震性能は十分なものではない(本震直後の避難行動は確保できるが、建物全体に変形が残る危険性があり、余震に対しては安全確保が困難になる場所が発生する可能性がある)」 なお詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年1月9日 市長定例記者会見> https://www.city.shizuoka.lg.jp/s8957/s013811.html#h2_8
				41	災害時の電力供給	1	電源は中部電力ではないとの説明があったが、どこの電力会社なのか。また災害が起きればどの電力会社も不安。ソーラー共有の電力も被害を受けるのでは。										○	近接する清水さくら病院とマリナートの電力は、主にENEOS用地内の浸水しない高台にある太陽光発電施設で発電した電力で賄われています。大規模災害時には市内全域が停電となる恐れがあるものの、地域独立型で電源を供給しているこのエリアでは、停電のリスクが低減されます。 新庁舎においても同様に災害に強い電力供給の形を検討してまいります。
				42	事業の進め方	1	まだ整備方針(案)であり、決まっていない。新築移転ありきですすんでいるのではないか。											○
43	民間機能	1	ホテル・オフィスなどの複合施設は確定した話ではない。不確定な話を出すべきではない。											○	合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり具体的な機能を検討してまいります。			
10	清水区	30代	会社員	44	移転場所	1	賛成します。現在ある庁舎はアクセスも悪く、また北側には歓楽街があることから適切な立地とは言えないように思います。また、清水駅方面へ移転すると、周辺の第一種住居地域や第二種住居地域からのアクセスもよくなるように思います。							○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高い庁舎を整備してまいります。			
				45	求める機能	2	耐震性を高め、津波などの時に人々を守るようにしてほしいと思います。								○	JR清水駅東口周辺は、レベル2津波に対して、現在、津波緊急避難場所が不足しています。このため、清水駅東口公園に堅牢な庁舎を整備することで、地震・津波発生時に迅速に水平・垂直避難できる場所として機能させ、来庁者や周辺にいる人々の生命を守ります。		

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答
11	清水区	70歳以上	専業主婦(夫)	46	移転場所	1	反対です。なるべく海から離れた場所にご提供ください。ピロティ式にしても車が濡かったら身動きできなくなります。					○	まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 新庁舎はペDESTリアンデッキを通じてJR清水駅西口へアクセスできますので、レベル1の津波に対して孤立する危険性は低いものと考えております。 <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf
				47	移転場所	3	7月カムチャツカ沖地震の津波注意報が出された時のことです。私は伊勢丹へ用があり、入口で「津波はどこまで来ますか？」と聞くと「津波は東名までです」と言われました。店内も外ものんびりしていました。昼過ぎに帰る途中、静鉄電車は止まっている。清水区内あちこちで渋滞とのこと。妻区との温度差を感じました。市民を守るべき清水区役所が先に被害にあう所へ作ること考えられませんか。					○	新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf
12	清水区	70歳以上	自営業	48	移転場所 地震・津波の被害、対策 事業の進め方	1	東日本大震災以後、津波浸水想定区域に行政庁舎を建設することは、理解されない。たとえ、何百年に一回の確率といっても予測不可能の中で、それを無視することはありえない。行政は議会が通れば実施できると考えるかもしれないが結果における責任は、市長に向かってあることを忘れてはならない。ランドデザインがないのに実行することは考えられない。					○	新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf なお、ENEOS株式会社用地については、2月17日
				49	公園・イベント広場 民間機能 駐車場	3	清水駅東口公園は残された最後の広場であり、これまで多くのイベント等で有効利用されている。ここに商業テナントを核としての庁舎合築はテナントも不明であり、納得できるものではない。もし合築を考えるというならば、駐車場スペースの確保にも困難がある。	○					現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。 また、駐車場についてのご意見を踏まえ、新たにJR清水駅西口に駐車場を整備し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結し、来庁される方の利便性を確保する計画としました。
12	清水区	70歳以上	自営業	50	まちづくり 現庁舎の跡地利用 駐車場	3	説明会でも、JR清水駅周辺～清水庁舎～日の出のマリンロードを回遊ロードと考えているかを伺ったが、真ん中部分が欠落してしまう。現庁舎の周辺住民の現庁舎に対する思い入れを考慮すべきではないか。現状何も感じない。東口公園に移転させ現庁舎は書庫・倉庫とするという。流動人口は激減となり、人の流れは今以上にさびれる。この利用方法をまともと考えているのなら、近隣住民は移転に理解はしないだろう。 現庁舎のあり方とあわせて周辺の公有駐車場の利用も必要ではないか、何も提示されていない。市長は、住民説明会において、住民の意見に対して「反論」を繰り返したが、トップが住民に対して見解の相違を述べ、理解を求めることは大切だが、「反論」を力説する中では、理解はすまない。まちづくりは、拠点化することは大切だが、周辺の理解なしでは、まちづくりに成功は難しい。	○					まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 現清水庁舎については、2023年度の精緻な耐震診断でより精度高く耐震性能が把握できました。耐震改修や設備改修には多額の費用がかかる一方、建物自体は大地震時も倒壊の危険性は低いことから、必要な部分改修を行ったうえで、利用方法や用途について行政利用に加え民間活用も含め利活用を検討します。 駐車場についてのご懸念については、新たにJR清水駅西口に駐車場を整備し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結し、来庁される方の利便性を確保する計画としました。
				51	ランドデザイン	3	ランドデザインを早急に作成すること。もちろん住民の理解のもとに。					○	清水駅東口を含めた清水港臨海部のまちづくりは、静岡県、静岡市、金融機関、民間企業が参画している一般社団法人清水みなとまちづくり公民連携協議会が作成した清水みなとまちづくりランドデザイン(2019年作成、2024年改定)に基づき、進められております。 また、清水港臨海部のうち、個別地区の取組みについてはガイドプランが作成されており、清水駅東口については「清水駅東口・江尻地区ガイドプラン(2022年公表)」が公表されています。 個別の取組みについては、実施主体ごとに検討が進められておりますが、静岡市が実施主体となる取組みについては、今回のパブリックコメントと同様に市民意見を伺いながら、市民理解を得られるよう取り組んでいきます。
				52	事業の進め方	3	周辺住民の声を聞く場を作ることが大切。					○	清水庁舎整備事業においては、11月11日に市民説明会を実施し市長自ら参加者からの質問に回答いたしました。また、清水庁舎で来庁者アンケートを行い、庁舎利用者の意見を聴取しております。
				53	その他	3	水族館、サッカースタジアム等打ち上げられたアドバルーンは大きく多いが、どこから手を付けるのか、財政的に余裕があるのかよく考えてほしい。					○	人口減少の加速期にある静岡市では、地域の稼ぐ力を拡大するため、所得と雇用の創出を行うことを考えなければならないことから、財政の健全性を維持しつつ、民間投資拡大の機会を創出するための投資支出を行うことが必要であると考えています。
13	市外	40代	会社員	54	整備方法 移転場所	1	妥当だと思います。清水は港街です。庁舎の移転により津波に強いまちづくりがさらに進むことを望みます。					○	災害に強く、同地区の防災力を高める庁舎を整備してまいります。 <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf
				55	要望	2	清水出身のさくらももさんのイラストを庁舎に使い、市民や出身者に愛される庁舎ができると嬉しいです。住民が用事がなくても行きたくなくなるような空間や機能があるとさらによいと思います。					○	いただいたご意見を踏まえ、庁舎機能を検討してまいります。

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答
14	葵区	無回答	無回答	56	移転場所	1	駅に近く、便利だが、災害が心配です。					○	災害に強く、同地区の防災力を高める庁舎を整備してまいります。 <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf
				57	求める機能	2	災害に強いビルにして欲しい。		○				災害に強く、同地区の防災力を高める庁舎を整備してまいります。 <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf
15	清水区	70歳以上	自営業	58	整備方法 移転場所	1	大賛成です。清水といえば清水港です。清水は海のお陰で栄えてきたのです。港町・清水は、海から逃げたいいけないのです。海と共存した街づくり、清水駅を中心としたコンパクトシティが理想の街造りです。					○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				59	民間機能	2	社会保険事務所、法務局、職安、税務署、商工会議所などの官公庁も一つの建物に集約していることですが、望ましいと思います。ホテルなどの商業施設も併設した方が良いとの意見もありますが、造るなら国際会議ができるくらいのホテルを造って欲しいです。しかし、いろいろな機能や要望を期待すると清水庁舎そのものができない可能性がありますので、あまり期待していません。			○		合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり具体的な機能を検討してまいります。	
15	清水区	70歳以上	自営業	60	要望	3	清水は、みなとを中心に港湾工業都市として栄えました。しかしながら、50年ほど前から清水の地場産業である造船、木材、缶詰などの産業が衰退の一途をたどっております。 ところが、この数年前からみなとが商業観光の中心として活性化し始めたのであります。本来ならば、これを機会に清水市民がまちをあげて、みなとの周辺を中心にコンパクトシティをつくることに賛成すべきでした。 しかし、残念なことに清水が港湾工業都市として栄えたためか、一般市民はみなとになじみがありません。このため、海と共に栄えるべきミナトまち清水の一部の住民は、『海は恵みの海ではなく、ただ怖いもの』と解釈しております。 私はミナトまち清水の住民は、海から逃げず海と共存すべきと考えております。清水の人口は減少の一途をたどっております。これ以上、清水の人口が減少しない内に、清水のまちづくりを真剣にスピード感を持って行うべきと考えます。少なくとも、難波市長の在任中に、『清水をサンフランシスコのような街に』つくりかえてくださるようお願いいたします。					○	まずは清水庁舎をJR清水駅へ移転し、今後も都市機能のJR清水駅周辺への集約を進めてコンパクト・プラス・ネットワークを推進して、清水都心部を活性化させることで、清水のまちを再生してまいります。
16	清水区	30代	その他	61	整備方法 移転場所	1	現清水庁舎の耐震性が十分でなく設備も老朽化により十分に機能しない状態では、清水庁舎で安全安心に働くことはできず、職員を守り、市民サービスの質を低下させないためにも必要なことだと思います。調査や検討を重ねた結果、移転新築案が最善であるという点については共感できました。					○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				62	庁舎規模 民間機能	1	意見としてまず、今後数十年先も今と同様に市役所へ来庁する仕組みが続くのかなと思いました。住民票等の取得がコンビニでも可能となり、今後はより対面でなくオンライン手続きなどが主流になっていくと思います。 対面が必要な業務は残るので、庁舎が不要となることはないですが、庁舎の役割が変わっていくことを想定して変化に柔軟に対応できる設計にした方がいいと思います。なので、民間施設との合築は必須だと思います。 むしろ、清水の一等地には市役所よりも優先させる施設があるのではないかと思います。それか、新築は完全に民間に任せて、市がフロアを借りて移転・使用することができれば費用が抑えられて市役所の役割変化に対応できるのではないかと思います。			○		民間施設との合築等については、民間企業等への聞き取り等を行い、最適な事業手法を構築していきます。合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり具体的な機能を検討してまいります。 将来を見据えた新庁舎の設計については、ご意見のとおり来庁者数の減少も想定されるため、行政部分については、例えば市民窓口機能を他の用途へ転用するケース等を視野に可変性の高い設計とするなどの対策を講じてまいります。	
				63	現庁舎の跡地利用	1	移転後の旧庁舎の使用について、倉庫的に使用したり借りて手を探したりと見通しが不明瞭ですが、売却せず市が保有し続けるといずれば耐震工事や大規模な設備改修が必要となることはないのでしょうか。そうすると最終的には改修と新築を両方することになるのではないかと思います。					○	現清水庁舎については、2023年度の精緻な耐震診断でより精度高く耐震性能が把握できました。耐震改修や設備改修には多額の費用がかかる一方、建物自体は大地震時でも倒壊の危険性は低いことから、必要な部分改修を行ったうえで、利用方法や用途について行政利用に加え民間活用も含め利活用を検討します。
				64	将来的な庁舎のあり方	1	そもそも清水庁舎は清水駅周辺にあるべきなのかなとも思いました。来庁する手続きが減れば、例えば葵区役所、駿河区役所内に清水区役所を入れる案はないのでしょうか。清水区民は遠くなり不便ですが、頻りに市役所へ来庁する要件は多くないでしょうし、たとえば休日や開庁時間を夜間までにする曜日を設けたり、柔軟な対応をすることで逆に利便性が上がった、職員のフレックスタイム制や週休3日制などを促進するきっかけにもなるのではないかと思います。				○	現在全庁的に申請手続きのオンライン化を進めているところでありますが、一方で、来庁して手続きをされる区民の方も一定数おり、また、区役所福祉事務所などの各窓口に相談に来られる区民の方は今後増えることも想定されます。 そのような中で、区民の方が等しく行政サービスを受けることができるようにするためには、葵区や駿河区にお住まいの方と同様に、清水区にお住まいの方も、利用に最も身近で便利な場所で行行政サービスが受けられるよう、清水区内に庁舎を整備する必要があると考えております。 庁舎整備後もさらなる市民サービス・利便性の向上を進め、職員の業務効率性も高め、その時代に合った庁舎のあり方を検討してまいります。	
				65	求める機能 整備方法 駐車場	2	市役所機能は最低限として、市民が利用できるスペースが多いといいなと思います。また、防災拠点としての機能が高いといいです。さくら病院もありますが、やはり何かあったときの安全安心のために避難場所として利用したり、食料の備蓄などがあるといいです。清水の一等地には市役所よりも優先される施設があると思うので、民間の施設を優先してその建物の一部を市が借りるというスタンスを希望します。駐車場は必須なので充実させてほしいです。	○					いただいたご意見も踏まえ、「日常の動線上にあり、ふと立ち寄りたくなる庁舎」を目指し、市民の皆さんに使っていただける機能を備え、市民の利便性と職員の働きやすさを向上する庁舎とする計画としました。駐車場についても駅西口に駐車場を新たに整備し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結することにより、市民の皆さんの利便性を確保します。 手法については、工期短縮、コスト削減が期待できる方式である、市が土地に定期借地権を設定して民間事業者が庁舎機能と民間機能を一体的に整備して設計、施工を一元化するDB(デザインビルド)方式を採用して、建物の完成後、庁舎機能分の建物は市が買い取り管理運営し、民間機能は民間事業者が所有し管理運営する計画としました。 食料等の備蓄については、ペDESTリアンデッキ等に退避した周辺滞留者やJR等の利用の帰宅困難者等を新庁舎で受け入れて安全を確保するため、大津波警報が最大3日程度継続した場合を想定し、必要な水や食料等を確保します。
17	清水区	30代	会社員	66	整備方法 移転場所	1	賛成です。					○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				67	駐車場	2	駐車場の充実をはかってほしいです。役所に寄ったついでに商店街でお買い物などできるようにすれば、経済効果も認められるのではないかと思います。活気あふれる街になってほしいです。	○				駐車場については、いただいたご意見を踏まえ、JR清水駅西口に駐車場を新たに整備し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結することにより、市民の皆さんの利便性を確保する計画としました。	

回答者No	住所	年齢	職業	意見No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					回答	
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)		
18	清水区	50代	会社員	68	整備方法 移転場所	1	私は、今回示された整備方針について基本的に賛成します。						○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				69	まちづくり	1	町の中心に人が集まることは、地域の活性化にとって重要な取り組みだと考えます。しかし、駅の東側だけに機能を集中させるのでは、西側の衰退を防ぐことはできません。人の回遊性を高めるための施策が必要です。具体的には、JRを挟んで東西を結ぶ連絡道路を増設し、駅前銀座や清水銀座商店街、新清水駅へ人々が回遊できる仕組みを整えることが重要です。さらに、人の通路だけでなく道路の増設も必要です。周辺のJR踏切では渋滞の激化が予想されるため、その対策も併せて進めていただきたいと思います。また、今回の清水庁舎移転は、清水駅・新清水駅周辺の活性化を前提とした街づくりの一環であることを、計画の中で明確に示していただきたいと思います。単なる庁舎移転ではなく、地域全体のにぎわい創出につながる位置づけが必要です。さらに、移転に伴う効果として、雇用の創出や企業・個人事業主・サービス業者の進出を促し、この地域に新たなビジネス機会を生み出すメリットを示すことも重要です。こうした経済的波及効果を計画に盛り込むことで、地域活性化の説得力が高まります。加えて、静岡市全体で清水地区の活性化を図るため、庁舎機能の一部を葵区から上記エリアへ移転することも検討いただきたいと思います。清水駅は静岡市の東海道線の駅の中央に位置し、駅からも近いので、静岡市の機能の一部をこのエリアに集約することは、市民の利便性向上にもつながると考えます。最後に、移転後は既存の清水庁舎周辺の賑わいが減少することが予想されるため、その対策についても併せて検討をお願いします。	○					まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。なお、いただいたご意見を踏まえJR清水駅西口に駐車場を新たに整備し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結することにより、市民の皆さんの利便性を確保する計画としました。既存の清水駅東口駐車場も活用し、駅の東西から新庁舎への移動を容易にし、交通量を分散する予定です。	
				70	求める機能 要望	2	役所という堅い印象ではなく、明るく開放的で、誰もが気軽に訪れられる、頼りになる場所にしていただきたいと思います。そこで働く職員の方々が、市民サービスに誇りを持てる環境を整え、「清水区出身ならここで働きたい」と思えるような庁舎にしてほしいと考えます。これにより、若い世代が清水の街に留まる象徴的な存在となり、人口流出の防止にもつながります。今回の移転を契機に、庁舎が地域活性化の中心となることを期待します。外国人観光客の増加に対応できる機能の強化、清水区への企業進出(大企業から中小企業まで)をさらに推進する機能も必要です。さらに、防災拠点として全国トップレベルの機能を備え、大地震などの災害時にも「清水は安心だ」という印象を市内外に浸透させることで、誰もが安心して暮らせる街づくりを実現していただきたいと思います。	○					いただいたご意見も踏まえ、「日常の動線上にあり、ふと立ち寄りたくなる庁舎」を目指し、市民の皆さんに使っていただける機能を備え、市民の利便性と職員の働きやすさを向上する計画としました。また、災害時は市民の皆さんの生命を守り、同地区の防災力を高める庁舎を整備してまいります。 <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf	
71	まちづくり	3	JR清水駅東口エリアのまちづくりについては期待していますが、既存の西口エリアの活性化が十分に見えず、とても心配しています。さまざまな検討が進められていることと思いますが、現在の対策に加え、このまちづくりが地域全体で誰もが喜べるものになるよう、ぜひご配慮ください。				○		まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。新庁舎の整備は、清水のまちづくりにおける先導的な役割を果たす事業として、JR清水駅東口に直結した高度な都市機能を備える民間・行政複合ビルとして整備します。今後ご意見にあるとおり、西口も含めた駅周辺の回遊性を向上して活性化を促し、清水のまちづくりを進めてまいります。					
19	清水区	70歳以上	その他	72	移転場所 地震・津波の被害、対策	1	コンパクトな都市機能を目指すうえでやむを得ないと思いますが、わざわざ津波浸水区域でありコンビナート地帯を至近距離に背負う位置が妥当なのか疑問に感じます。津波避難ビルの必要要素も当然備えられるでしょうが、海岸線に向かって避難するのはかなりの決断が必要となると思われます。						○	新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能発揮するよう設計を行い、同地区の防災力を高めています。『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf なお、レベル1の津波に対しては、JR清水駅西口は津波浸水想定区域ではありませんので、新庁舎に緊急避難するのは津波警報時にJR清水駅東口周辺の人々になります。周辺の人々が安心して避難できるよう、津波に対する新庁舎の安全性を周知してまいります。
				73	現庁舎の跡地利用	2	現庁舎の後には、賑わい創出力が出来るような力強く、町の求心力になるような施設の設置を望みます。				○		ご意見を踏まえ、現清水庁舎については耐震改修や大幅な設備改修を行わず、必要な部分改修を行ったうえで、利用方法や用途について行政利用に加え民間活用も検討し活用することとします。	
				74	現庁舎の跡地利用 まちづくり	3	1983年に旧庁舎に変わり建設された新庁舎は、39年間にわたり清水区(旧清水市)の中心的なシンボルとしてまさに市街地の中心地へ建設されました。かつては清水市公会堂や貿易センタービルなどが立ち並びまさに清水市の中心として多くの市民に親しまれてきました。昭和48年頃をピークにそれまで当市を支えてきた重厚長大型の地場産業がことごとく下降線に転じ、清水の街中も徐々に冷え込んできました。コンテナ船の入港はほぼ順調(横ばい)に推移するものの、清水の商業にとって大きなエイトを占めていた漁船の減少は目を見張るものがあり、将来を見越して中心地域にあった大量販店は相次いで閉店していききました。特に商業・サービス業の落ち込みは激しく、危機的状況になってしまいました。合併前の清水庁舎には、000人を超える職員が在籍し、職員の購買力は清水の街にとって大きなものがありました。合併以来大幅に職員数が減少と併せて大幅な人事の異動がなされたことで購買力も激減し、中心街の商店はほとんど店を閉め、更に、銀行や証券会社等においても清水支店を閉め、静岡地域に集約をしてしまいました。静岡中心部の支店経済都市とちがいの流れが途絶えた中心街はいたるところで空き家と駐車場が目立ち、高齢者だけが取り残されるまさに限界集落化しています。臨海部は流動人口の取り込みでますます充実することが予想されますが、さつき通りを中心とした旧中心部はますます弱体化し、夜は暗く寂しいまち並みが続くこととなります。静岡市におかれましてはぜひ住環境整備と併せて現庁舎の跡地利用等を含め中心部を軸とした高齢者にも満足できるようなまちづくり計画の策定をぜひお願いいたします。クルーズ船客も町中を楽しく散策できるよう「海洋文化都市」に相応しいまちづくりをお願いいたします。	○				まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。現清水庁舎については、ご意見を踏まえ、耐震改修や大幅な設備改修を行わず、必要な部分改修を行ったうえで、利用方法や用途について行政利用に加え民間活用も検討し活用することとします。		
20	清水区	60代	会社員	75	整備方法	1	新築案に基本的に賛成です。						○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				76	求める機能	1	せつかくの東口広場が定着化しつつあるので、庁舎が高層化し、1階は多目的広場として市民に解放出来るようにし、2階には喫茶店などの憩いの場を増設、3階以上を庁舎機能を持たせたら如何でしょうか？庁舎をペDESTリアンデッキでJR清水駅と連結し、水平移動出来るようにし、利便性を向上させるのと同時に、高層化に伴うビル風対策をして戴けたら、と愚考しています。				○	今後、いただいたご意見も参考にしながら、今後の事業者提案を踏まえ、新庁舎の機能の詳細を決定してまいります。		

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え						
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答	
21	清水区	20代	自営業	77	整備方法 移転場所	1	津波の危険性はあるものの、同時に津波避難ビルが少ないエリアでもある。庁舎として整備した上で災害時の避難場所になるなら確実に整備を進めるべきだと思う。それと同時に、駅前の少ない人通りを取り戻すチャンス。またアーケード商店街やグルメ通りも確実に人通りは増えるだろう。反対意見もあるかも知れないが、どんどん進めるべきだ。		○					新庁舎の整備は、清水のまちづくりにおける先導的な役割を果たす事業として、JR清水駅東口に直結した高度な都市機能を備える民間・行政複合ビルとして整備します。今後も都市機能のJR清水駅周辺への集約を進めてコンパクト・プラス・ネットワークを推進して、清水都心部を活性化させることで、清水のまちを再生してまいります。
				78	求める機能 要望	2	ガラス張りの構造をできる限り減らして強固な作りを目指してほしい。現在東口エリアで開かれている。イベントが今後も出来る様に、新しい公園や広場も整備してほしい。		○				JR清水駅東口周辺は、レベル2津波に対して、現在、津波緊急避難場所が不足しています。このため、清水駅東口公園に堅牢な庁舎を整備することで、地震・津波発生時に迅速に水平・垂直避難できる場所として機能させ、来庁者や周辺にいる人々の生命を守ります。現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。	
22	駿河区	50代	公務員	79	地震・津波の被害、対策	1	東海地震の発生周期は、1,000年に一度ではなく100年～150年の周期であり、予め想定される津波における被害は事故や天災ではなく人災となりますので、清水駅東口公園に庁舎を移転した際に、その庁舎敷地内で津波被害遭った場合の損害賠償の予定額の公開をする必要があると考えます					○	新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf	
				80	地震・津波の被害、対策	2	浜岡原子力発電所なみの防潮堤建設による津波被害対策が必要と考えます				○		レベル2津波は発生頻度が極めて低いことから、高さが高い防潮堤等の施設整備(ハード対策)を実施するのではなく、警戒避難体制の整備(ソフト対策)との組み合わせによる、多重防御による対策を進めています。なお、『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf	
23	葵区	70歳以上	その他	81	移転場所 地震・津波の被害、対策	1	南海トラフ地震発生時における津波火災対策を講じない限り、東口公園への移転は危険すぎます。		○				新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf	
				82	求める機能	2	清水区住民ができる限り清水庁舎でサービスが受けられるようにしてほしい。	○					いただいたご意見を踏まえ、新庁舎は「JR清水駅に直結し、様々なサービスがワンストップで完結する次世代型の庁舎」を整備方針のひとつとし、市民の皆さんの利便性を高める計画とします。	
24	清水区	60代	その他	83	駐車場	1	現在、自動車で清水庁舎に行く人が、清水駅近くに移転したからといってバスやJRで行くようにはならないと思う。現清水庁舎では、第2、第3駐車場があっても第1駐車場の空き待ち車両が列をなす状況である。清水駅東口公園に移転した場合、来庁者が納得できる距離での駐車場の確保が難しいと思う。また、市の公用車両置場や、市職員の通勤用駐車場の確保も難しいのではないかな。	○				JR清水駅は、主要な路線バスが乗入れている立地特性を活かし、今後のまちづくりに合わせたさらなる交通アクセスの改善を進めていきます。また、駐車場についてはご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、駅・新庁舎とベデストリアンデッキで連結して来庁者の利便性を確保する計画とします。なお、市職員の通勤用駐車場に関しては、現清水庁舎においても、市有地で確保はしておりません。		
				84	交通	3	辻、江尻、飯田及び高部地区から整備予定地に自転車・バイク・自動車で行く場合は、外浜踏切を通ることになる。外浜踏切は幅が狭く歩道部分もないため、歩行者及び自転車にとって危険である。庁舎新築工事に合わせて踏切の改修を東海旅客鉄道と進めることが必要。また、踏切東側の丁字路交差点も見通し悪く改修が必要。			○		周辺道路等の交通基盤については、当地区のまちづくりを進めながら対応していきます。		

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					回答	
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)		
25	清水区	30代	公務員	85	整備方法 移転場所 求める機能	1	移転新築に賛成です。災害時には、防波堤や津波避難タワーの役割をして欲しいです。		○					<p>JR清水駅東口周辺は、レベル2津波に対して、現在、津波緊急避難場所が不足しています。このため、清水駅東口公園に堅牢な庁舎を整備することで、地震・津波発生時に迅速に水平・垂直避難できる場所として機能させ、来庁者や周辺にいる人々の生命を守る計画としています。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>
				86	求める機能 駐車場	2	駅近だが、広めの駐車場を確保していただきたい。また、近隣に津波避難タワーが少ないので、垂直避難ができるようにして欲しい。避難した際には、庁舎内に大人数の人が入っても大丈夫な広場やホールなどがあるといいと思います。他にも、屋上階に展望台があると観光客や社会科見学でも利用できるのではないかと思います。展望台には売店等も入れて、売店には福祉就労の雇用場所として活用するのも良いのではないのでしょうか。子連れで行くこともあるので、コンビニ等あると何かあった時に購入できるので便利だと思いました。手続きが長くなるとは、待ち時間に時間を潰せるもの(マルシェや遊具など)があるといいなと思いました。	○					<p>新庁舎の機能につきましては、民間企業等への聞き取り等を行い最適な事業手法を構築するとともに、ご意見を参考にしながら必要な機能を整備してまいります。</p> <p>駐車場についてはご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結して来庁者の利便性を確保する計画とします。</p>	
				87	求める機能	3	清水区に住んでいて、3歳までの小さな子の子育てがしにくいと感じるときがあります。浜松市のようなこども館が庁舎内にあるといいなと思います。施設は全て新しく作るよりも、焼津にある施設のように漁港の廃材を使うなどの地元のリサイクルできるものを使うと経費削減、およびSDG'sに繋がるのではないかと思います。行政の手続きは待ち時間が長いので、子どもを親族等に預けてから行くことが多いです。 子どもとお出かけ感覚で行けると便利なのになと思います。QRコードなどを使って待ち時間がスマホで分かるシステムの導入や、違う階にいても自分が呼び出されたことがわかるような仕組みがあると嬉しいです。大学生や大人は市役所を利用する割合が子どもと比べて多いと思います。 そのため、小中学生などの子どもは社会科見学や作品の展示等で市役所に足を運ぶことで、市役所を身近に感じてもらうのもいいかなと思いました。老人や清水港に寄港してくる外国人たちにも、AIを使った案内所を設けたり地元の特産品や福祉就労の作品や商品をマルシェ等で展開するスペースがあると、どんな人にも利用しやすい市役所になるといいなと思いました。新庁舎がどんな市役所になるか、楽しみです。			○				<p>合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり、ご意見を参考にさせていただきながら、具体的な機能を検討してまいります。</p>
26	駿河区	30代	自営業	88	移転場所 地震・津波の被害、対策	1	やや反対。大規模地震の発災時は確実に対応が遅れる、または、役所として機能しないと予測できるためです。一般的な職員の勤務時間から計算すると、発災時、高確率(75%ほど)で自宅から役所に参集することになります。発災後に参集できる職員が何名いるか。そのようなモノを100億円以上かけて新設する価値があるか。1000年に一度のことが近い将来発生する可能性がある今、莫大な資金を投じていいのか。職員も含めて、さらに考えていただきたいです。		○				<p>「南海トラフ巨大地震(レベル2地震)」(最大クラスの地震)の発生確率について、政府の「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)」(地震調査研究推進本部地震調査委員会、2025.9)では、「発生頻度は、100～200年の間隔で繰り返している大地震に比べ、一桁以上低いと考えられる」としています。</p> <p>新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>	
				89	移転場所 まちづくり	2	これからの時代、役所は不便な場所にあつていいと思います。街中のビルに1フロア程度の出張所があれば、大部分の役割は果たせるはず。街中でなければ敷地内に駐車場の設置も可能でしょう。デジタル化の真髄はどこにいても行政サービスが受けられる、たと思います。一等地は民間に使ってもらいましょう。静岡市の土地にビルを建て、収益化することには賛成です。 清水区民が来庁する理由を正確に把握し、その理由の大部分が来庁せずに済む内容であれば、役所を駅近くに設置する必要はないと思います。街中のビル1フロア程度の出張所があれば、新築しなくても業務をカバーできるはずです。もし、清水駅周辺の賑わいを創造したい、という目的が含まれているのであれば、それは筋が悪いと思います。清水駅東口は、災害を除けば素晴らしいロケーションです。賑わいを創造するのであれば、役所ではなく、民間の施設を誘致するのがベストです。 これからの新時代、役所を一等地に設置する必要があるのか。デジタル化を目指す中、今までのやり方を変えていくことができないのか。今だけでなく、これから50年以上先のことも考え、新しい庁舎をつくってください。			○			<p>一般に、申請手続きのオンライン化が進んだとしても、来庁してご相談をする区民の方は残ることが考えられます。また、その場合に来庁される方々は移動困難であるケースがあります。そのため、現状においては清水庁舎を整備し、来庁される方の利便性を確保したいと考えております。庁舎整備後もさらなる市民サービスの利便性の向上を進め、職員の業務効率性を高め、その時代にそった庁舎のあり方を検討してまいります。</p> <p>また、まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。</p> <p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>新庁舎の整備は、清水のまちづくりにおける先導的な役割を果たす事業として、JR清水駅東口に連結した高度な都市機能を備える民間・行政複合ビルとして整備します。</p> <p>合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり、具体的な機能を検討してまいります。</p>	
27	清水区	40代	専業主婦(夫)	90	駐車場 交通	1	無料駐車場と、交通渋滞の問題だけ解決してください。清水がどれだけクルマ社会か、わかってください。バスは一時間に一本、最寄りの駅まで歩いて20分です。公共の交通機関は使いません。	○					<p>駐車場については、いただいたご意見を踏まえてJR清水駅西口に駐車場を新たに整備し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結することにより、市民の皆さんの利便性を確保する計画としました。加えて既存の清水駅東口駐車場も活用し、駅の東西から新庁舎への移動を容易にし、交通量を分散する予定です。</p> <p>また、周辺道路等の交通渋滞対策については、当地区のまちづくりを進めながら対応していきます。</p>	
				91	求める機能 駐車場 交通	2	無料駐車場と、渋滞しない道。庁舎が休みの土日は有料にして、解放すればいいと思います。	○					<p>駐車場については、いただいたご意見を踏まえてJR清水駅西口に駐車場を新たに整備し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結することにより、市民の皆さんの利便性を確保する計画としました。加えて既存の清水駅東口駐車場も活用し、駅の東西から新庁舎への移動を容易にし、交通量を分散する予定です。</p>	
28	清水区	60代	会社員	92	要望 まちづくり	1	清水駅を中心に総合病院、コンサート会場、サッカー場、行政と清水区の繁栄の建物にしてほしい。			○			<p>新庁舎の整備は、清水のまちづくりにおける先導的な役割を果たす事業として、JR清水駅東口に連結した高度な都市機能を備える民間・行政複合ビルとして整備します。</p>	
				93	求める機能	2	図書館、飲食店、展望台など設置してほしい。			○			<p>合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり、具体的な機能を検討してまいります。</p>	
				94	交通	3	マクドナルド側から港湾道路側へ車が往来できるようにしてほしい。			○			<p>周辺道路等の交通渋滞については、当地区のまちづくりを進めながら対応していきます。</p>	

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					回答	
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)		
29	清水区	70歳以上	その他	95	整備方法 移転場所	1	反対						○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				96	交通	2	さくら病院が出来ましたが、交通が非常に不便です、現在区役所の横の道路を通過して病院に行っていますが、清水駅前の1号線から入る地下道があれば、非常に便利になり時間短縮になります。				○		さくら病院のアクセスに関するご意見ですので、回答を控させていただきます。	
				97	地震・津波の被害、対策 移転場所	3	建物は、東海沖地震ではそれなりの対策して設計しているのでは何問題はありません。問題は大地震に対して津波対策が不十分です。数年前の県庁の資料で、5～6mの津波が書いてありました、設計だと海岸の堤防を2～3m書いてあったと思います。大津波が来れば、病院だけでなく海岸から巴川までの間の大きな範囲が水没になります。清水区の機能がとまります。新区役所は、船でなければ区役所に入ることが出来ません、JRも止まり自動車も通行出来ません。それを防ぐには、堤防をそれなりの高さにしなければなりません、それは新区役所回り付近だけでなく、巴川河口から興津までの海岸線と、巴川の河口から上流の海拔6メートルあたりまでです。清水区の繁華街から巴川西側まで水没です。広範囲の水没対策は、非常な金額がかかりすぐに出来るものではありません、何年かかかる長期間になります。新区役所はすぐに必要な物です。旧桜病院の跡地に建てたらどうですか地震には影響は受けませんが、現在の駐車場に10階建ての区役所を建て、足りなければ、桜が丘公園に分室を建てたいかがでしょうか、駐車場も必要ですので建物解体跡地と余った土地に立体駐車場をまだ足りないなら、桜ヶ丘公園を利用したらいかがでしょうか、新区役所の地下も利用出来ます。地震対策は建物だけでなく、静鉄の駅は近いし、市の真中で交通が非常に便利で、JRの駅も桜橋に作ったらいかがでしょうか。金額は予定場所より安くできます。堤防の件は、市民生活に影響が出ない程度で5年計画、10年計画とか長期計画で都市計画の中で計画したらいかがでしょうか。津波で水没になる場所に新区役所を建て、将来水没したら市民からの攻撃は非常な物になります。				○	まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。津波に対する考え方としては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。<2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf		
30	清水区	60代	その他	98	整備方法 移転場所	1	『清水庁舎』を『清水駅東口』に『移転新築』することについて異存は有りませんが、『東口公園』に新築することには異存が有ります。「港町・清水」の玄関口である清水駅の「みなと口」側の空間は、港(海)に向かって開かれ、開放感を持たせるべきと考えます。この項JRをよく使用しており、ホームから、本数は少ないですが樹木のある東口公園を通しての港方向の景色がいい感じで、眺めるのを楽しみにしており、「さくら病院」と「マリナート」間の空間は現状のままにさせていただきたい。移転場所としては、「今後の民間投資を促すためには、今が公共投資を行う絶好の機会」とうたっている「ENEOS跡地」の「リノ」側に、駐車場も併せて整備するのが良いのではないかと考えます。					○	現清水庁舎の耐震性能は、十分なものではなく、設備の老朽化が著しいため、一刻も早い整備が必要です。仮に、地域づくりエリア内に庁舎建築しようとする場合は、土地を所有するENEOS株式会社と合意した後、少なくともタンクの撤去や地盤の高上げ等の作業が必要であるため、工事着手までに相当の期間が必要となります。そのため、JR清水駅周辺に庁舎を含む都市機能を集約していくという清水のまちづくりの基本的な考え方を踏まえ、市有地である清水駅東口公園を清水庁舎の移転場所としました。	
				99	求める機能	2	検討はされているようですが、「可能な限り身軽で、市民に開かれた開放的な庁舎」を希望します。	○					いただいたご意見も踏まえ、「日常の動線上にあり、ふと立ち寄りたくなる庁舎」を目指し、市民の皆さんに使っていただける機能を備え、市民の利便性と職員の働きやすさを向上する計画としました。	
31	清水区	70歳以上	その他	100	整備方法 移転場所	1	新築には賛成 清水駅東口公園への移転は反対 清水区内に適した場所はいくらでもある 以前候補にあがった水害の予想される土地のほうが津波より余程まし					○	まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。そのため、JR清水駅周辺に庁舎を含む都市機能を集約していくという清水のまちづくりの基本的な考え方を踏まえ、市有地である清水駅東口公園を清水庁舎の移転場所とし、災害に強い庁舎を整備してまいります。	
32	清水区	20代	会社員	101	整備方法 移転場所	1	反対します。						○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				102	移転場所 地震・津波の被害、対策 駐車場の進め方	2	津波が来ない場所にするべき。なぜ海の横に建てようとするのか理解に苦しむ。2011年の震災で何も感じなかったのか？津波が来るエリアに建てるのはなぜ？駐車場の確保は？リニア事業と同じで結論ありきで話が進んでいる。もっと検証と地域住民の声を聞くべき。そもそも静岡市役所があるため、新規で庁舎を建てる必要を感じない。					○	まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。津波に対する考え方としては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。<2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf なお、駐車場については、JR清水駅西口に新設し、新庁舎・駅とペDESTリアンデッキで連結して利便性を確保する計画としました。また、現在静岡市役所を含む静岡庁舎は、余剰スペースがなく、現在の清水庁舎の組織を内包することができません。また一般に、申請手続きのオンライン化が進んだとしても、来庁してご相談をする区民の方は残ることが考えられます。また、その場合に来庁される方々は移動困難であるケースがあります。そのため、現状においては清水庁舎を整備し、来庁される方の利便性を確保したいと考えております。	

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え						
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答	
33	清水区	70歳以上	専業主婦(夫)	103	まちづくり 駐車場 地震・津波の被害、対策 公園・イベント広場	1	清水駅東口街づくりに前進するという理由に納得できない。 1. 庁舎自体が街づくりに関与するのが疑問 2. 駐車場不足が予想される。 3. 地震、津波の影響が心配。 4. 津波浸水域のため国からの補助がない。 5. 東口公園の代替公園が未定	○						まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 津波に対する考え方としては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf また、駐車場については、ご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、新庁舎・駅とペDESTリアンデッキで連結して利便性を確保する計画としました。 津波浸水域のため国から補助がないというご意見に関しましては、国の補助金を目的に庁舎の移転を行うものではありません。清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。
				104	事業の進め方 現庁舎の跡地利用 公園・イベント広場	3	2022年に決定した清水庁舎は改修する予定だったのに、なぜすぐ取り掛からなかったのか？やはり新築を前提とした考えを捨てきれなかったのではと思う。耐震診断は2022年と同じ業者にもう一度依頼してほしい。新築した場合の現庁舎はそのまま放置するのか？解体には最大32億円かかるかと新聞紙上(2019年 中日新聞)で発表されている。中途半端な改修では活用はむずかしい。パリなどヨーロッパでは古い建物を補修し使用している。清水庁舎は空調など大改修すれば十分機能する立派な建物です。 河津桜が咲き、モニュメントがあった公園は、8階建ての桜病院が建設され、清水駅自由通路から見える富士山は見えなくなった。その失った公園の代替公園は、今回新築が予定されている清水駅東口公園です。清水駅東口を挟んだ二つの公園は静岡市には珍しい広い空間で風光明媚、アクセスも良く、イベント開催に最適でした。街づくりに最適な場所だったのです。今でも残されて新築予定の東口公園はイベントで使用されています。これ以上建物はありません。河津桜など樹木を植えてください。				○		清水庁舎の整備については2023年度に現市長が「現時点において、清水駅東口には庁舎の移転先としての十分な用地がなく、かつ、清水庁舎の耐震改修は緊急を要するものである。ライフサイクルコスト(使用期間(例えば20年)の全体を通じた整備・維持管理の費用)の観点からは、これまでの検討状況では現位置改修案は最適案ではない。しかし、清水庁舎の状況を鑑み、緊急回避策として現位置改修案を選択することし、最適な補強方法を判断するために、耐震性の詳細な検討を実施する。ただし、耐震性の診断結果によっては、結論が変わることもありうる。」とし、再整理を行いました。 その結果、耐震性の詳細な検討の結果、清水庁舎の耐震性能は「十分なものではない(本震により、建物全体に変形が残る危険性があり、直後の避難行動は確保できるが、余震に対しては安全確保が困難になる場所が発生する可能性がある。なお、地震により建物の崩壊に至る危険性は低い。)」と判断しました。加えて、2022年の検討時から大幅に改修費用が増加したことから、2025年3月に改めて新築案を精査し、改修案と比較検討することを説明した上で、11月に「2025年度 清水庁舎の整備方針(案)」を発表しました。 現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。	
34	清水区	70歳以上	その他	105	整備方法 移転場所	1	賛成します。					○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。	
				106	求める機能 地震・津波の被害、対策 駐車場	2	津波対策と駐車場の確保を万全にお願いします。	○				いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。 駐車場については、ご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、新庁舎・駅とペDESTリアンデッキで連結して利便性を確保する計画としました。		
				107	交通	3	JR清水駅東部、港口の再開発、整備計画に関係して、東西の交通アクセスが課題です。現状では、JR踏切交叉に伴う交通渋滞、歩道の未整備、電柱による歩行者、自転車の交通リスクなど、課題山積です。ご検討をお願いします。			○		周辺道路等の交通基盤については、当地区のまちづくりを進めながら対応していきます。		
35	清水区	50代	会社員	108	整備方法 移転場所 駐車場 公園・イベント広場	1	車で動くため、駐車場の確保。公園、広場が無くなるのは反対	○					駐車場については、ご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、新庁舎・駅とペDESTリアンデッキで連結して利便性を確保する計画としました。 また、現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。	
				109	移転場所 駐車場	2	駅に近いメリットは余りない。駐車場は必要。海の前は確かに心配。機能出来なくなったらどうするのか。駐車場を確保できるのか。ほとんどが車を使うと思う。土日は休みになりからんとする。活気がある様には思えない。広場を無くすと余計人も集まらない気がする。今のところの駐車場側ではダメなのか。	○				まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 津波に対する考え方としては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf 駐車場については、ご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、新庁舎・駅とペDESTリアンデッキで連結して利便性を確保する計画としました。 また、現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。		

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え				
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)
36	清水区	40代	パート・アルバイト	110	移転場所 地震・津波の被害、対策	1	移転場所が海に近く津波被害が出るのはわかっているのにわざわざ危険な場所に役所を置くのは何故ですか？他の内陸に移転を検討して欲しい。被害の時に対応する機能があるとは思えないです。				○	<p>まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。</p> <p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>
				111	地震・津波の被害、対策	2	津波の時の対応策はあるのか		○	<p>津波に対する考え方としては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>		
37	清水区	50代	パート・アルバイト	112	整備方法	1	葵区、駿河区役所と統合合併、一元化				○	<p>現在全庁的に申請手続きのオンライン化を進めているところでありますが、一方で、来庁して手続きをされる区民の方も一定数おり、また、区役所福祉事務所などの各窓口相談に来られる区民の方は今後増えることも想定されます。</p> <p>そのような中で、区民の方が等しく行政サービスを受けることができるようにするためには、葵区や駿河区にお住まいの方と同様に、清水区にお住まいの方も、利用に最も身近で便利な場所で行政サービスが受けられるよう、清水区内に庁舎を整備する必要があると考えております。</p> <p>庁舎整備後もさらなる市民サービス・利便性の向上を進め、職員の業務効率性も高め、その時代に合った庁舎のあり方を検討してまいります。</p>
38	駿河区	30代	公務員	113	移転場所 地震・津波の被害、対策	1	新築することには賛成ですが、津波の被害が想定される区域に建てることには反対です。				○	<p>津波に対する考え方としては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>
				114	移転場所 地震・津波の被害、対策	2	津波の被害が想定されない場所に建てること。災害時の防災拠点となる機能。		○	<p>まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。</p> <p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>		
38	駿河区	30代	公務員	115	地震・津波の被害、対策 移転場所	3	市長は市民への説明会において、「南海トラフ地震は千年に一度」と発言していましたが、専門家は「今後30年以内に70～80%の確率で発生する」と言っています。リスクを低く見積り、市民や働く職員の命を軽視するのはやめて下さい。また市長は「河岸の市にはたくさんの方が来ている」とも発言していましたが、河岸の市のような場所は、自分で行くかどうかか選べるところです。地震や津波も気にせず行く人もいます。しかし、市役所は状況により、また職員にとっては「行かなければいけない」ところです。「津波被害想定区域には行きたくない」という人もいます。自分の命を守りたいと思う人を無視しないで下さい。人の命は街づくりよりも大切です。行政の施設は、津波被害想定区域外に建設してください。				○	<p>南海トラフ巨大地震の発生確率について、政府の地震調査委員会が2025年9月に発表した時間予測モデルによる発生確率「今後30年間の発生確率60～90%程度以上」はレベル1の地震の発生確率と見なすのが妥当であり、「南海トラフ巨大地震(レベル2地震)」の発生確率と見なすべきではないと考えています。</p> <p>新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p>なお、「南海トラフ巨大地震(レベル2地震)」(最大クラスの地震)の発生確率について、政府の「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版一部改訂)」(地震調査研究推進本部地震調査委員会、2025.9)では、「発生頻度は、100～200年の間隔で繰り返し起き起きている大地震に比べ、一桁以上低いと考えられる」としています。</p>

回答者No	住所	年齢	職業	意見No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え							
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答		
39	清水区	50代	会社員	116	移転場所	1	どんどん遠くなるし、今が不便ではない。						○	清水庁舎へのアクセスについては、現在地よりも公共交通の結節点であるJR清水駅周辺の方が多くの市民の皆さんにとって利便性が高まるものと考えております。	
				117	現庁舎の跡地利用	3	移転後の利用を示してほしい							○	現清水庁舎については、2023年度の精緻な耐震診断でより精度高く耐震性能が把握できました。耐震改修や設備改修には多額の費用がかかる一方、建物自体は大地震時も倒壊の危険性は低いことから、現清水庁舎については、耐震改修や大幅な設備改修を行わず、必要な部分改修を行ったうえで、利用方法や用途について行政利用に加え民間活用も検討し利活用することとします。
40	清水区	60代	会社員	118	移転場所	1	反対派が移転反対、津波浸水地域外への建設を求めても、清水区を中心街なら他にもありません。全部その地域に当たります。それに清水区を中心街から津波から避難出来るビルが減少しています。逆に地域住民の為に、あえて自治体がこのような避難ビルを兼ねた庁舎を作る事が必要ではないでしょうか。 9月の津波避難警報が出た時は、車で動ける住民は狐ヶ崎のイオンへ避難してきました。その事を考えると、このように動けない住民に対して必要になります。その事の説明も強くなるべきです。						○	最悪の津波が最悪の状態が発生した際であっても、新庁舎は重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、来庁者はもとより周辺にいる人々の生命を守る使用とし、同地区の防災力を高めてまいります。庁舎の必要性については市のHP等を通じ市民への周知を図ってまいります。	
40	清水区	60代	会社員	119	求める機能要望	2	①屋上ヘリポートの設置です。可能であれば海保や警視庁、消防庁が持つ大型ヘリの離発着ができるくらいの強度があるもの ②桜橋にある清水図書館の移転です。そのあとには、市の部局で市民が直接訪れる事が無い管理部門を移転させればいいです。清水区の図書館は、やはり位置的に不便です。御幸町の図書館は、新静岡の横にあり利便性が高いです。清水図書館もこのようにすべきです。 ③新庁舎の避難場所として経済界が高層部分に広い避難スペースを要求しています。それなら、普段はもうすぐ中学の部活動が地域移行されますが、柔道や剣道、体操や卓球など個人種目で清水区全体でも中学生の競技人口が少ないと思われ運動部の練習の場として普段は利用できる構造の広いスペースしたらいいかですか。区全体から見れば位置的には区の真ん中にあります。JR清水駅やバスターミナルもあり、ほぼ全地区から公共交通機関を使い来れます。普段はこのような練習が出来るスペースにして、非常時には避難場所として使えるような場所としてつくるべきです。						○	合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり具体的な機能を検討してまいります。 その他の機能につきましては、いただいたご意見も参考にしながら、具体的な検討を進めます。	
				120	事業の進め方	3	このような説明会を行うと反対派ばかりの意見で建設に賛成し、それにあたり求める機能やアイデアを言う事が出来ません。今回、このフォームで書きましたが、今後は何らかの対応をお願いします。							○	今回の方針(案)については、「パブリックコメントの実施」「市民説明会での意見交換」に加え市民の皆さんのご意見を広く把握するため「来庁者アンケート」を実施し、複数の手法で幅広く市民の皆さんのご意見を伺い、「2025年度 新清水庁舎建設基本計画」を策定しました。
41	清水区	50代	会社員	121	移転場所 公園・イベント広場 駐車場	1	いま東口広場はマグロ祭りやコスプレ大会や様々な市民の集まりの場、楽しみの場所なのでそこに建物が建つと、今までやってたイベントはどこでやるのか疑問になります。駐車場もどうするのか疑問						○	駐車場については、ご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、新庁舎・駅とペDESTリアンデッキで連結して利便性を確保する計画としました。 また、現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。	
42	清水区	50代	その他	122	まちづくり 駐車場 地震・津波の被害、対策	1	静岡市中心街ですらマルイに続きバルコが閉店する。人口減少社会で清水の経済の活性化、清水のまちの再生など、とうてい不可能である。さくら病院も1Fに若干の台数の駐車場があるが、職員駐車場、第2駐車場はすいぶん多い。新庁舎も同様である。職員駐車場はともかく、利用者は車でなくペDESTリアンデッキでアクセスする、というのが原則なのだろうか。また、津波で0.1から0.6メートル程度浸水しられき等が残った場合、さくら病院へ行く際にペDESTリアンデッキは使えるとしても、救急車や車だけが人や病人や職員がアクセスすることは難しくなるだろう。新庁舎も同様である。津波で0.1から0.6メートル程度浸水しられき等が残った場合、ペDESTリアンデッキは使えるとしても、公共交通機関は停止し、車、バイク、自転車で職員が出動したり利用者がアクセスすることは難しくなるだろう。							○	駐車場については、ご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、新庁舎・駅とペDESTリアンデッキで連結して利便性を確保する計画としました。 また新庁舎における津波への対応については、以下「レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方」を市HPでご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsume1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsume1125.pdf
				123	要望	2	新庁舎の区役所機能が絞り込まれ区内各所に分散されると、利用者の利便性は著しく低下する。せっかく区役所に行っても、「そのお手続きは××町の●●支所です」などとたらい回しにあいかねない。桜が丘病院跡地や清水税務署跡地など、なるべく1か所の新庁舎に区役所機能を集約できないものだろうか。							○	区役所機能や、多くの市民が利用する窓口機能は、新庁舎に配置することで利便性を確保します。

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答
43	清水区	19歳以下	学生	124	移転場所	1	移転に反対します。清水駅ではなく、津波の時にも大丈夫な桜ヶ丘病院跡地などでしょうか。子連れやお年寄りなど車の利用も多いと思うので駐車場も広く併設されていると良いと思います。駐車場が広げれば災害時も利用できると思います。せっかく作っても、機能しないと困るので、防災の専門家や街づくり専門家、もっと市民の意見も聞いてほしいと思います。市民の税金を大切に有効に活用してください。				○		まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 パブリックコメント等でいただいた市民の皆さんのご意見を踏まえ、災害に強く市民利便性が高い庁舎を整備し、清水のまちづくりを前進してまいります。
				125	求める機能	2	防災と学生の居場所作り				○		いただいたご意見も踏まえ、「日常の動線上にあり、ふと立ち寄りたくなる庁舎」を目指し、市民の皆さんに使っていただける機能を備える計画としました。 また、防災においては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。
44	清水区	70歳以上	その他	126	まちづくり 移転場所 公園・イベント広場	1	清水市庁舎をJR清水駅東口公園に移転するという計画案に反対する。その理由は、平成の初めにコンパクトシティーを目指したJR清水駅東口土地区画整理事業内にあり、現在の清水駅東口公園は、旧清水駅東口公園が移動してくる前は、清水駅東口広場として「お祭り広場」などのイベント広場として使用されていたオープンスペースであった。そして、現在は以前のオープンスペースの場と同様になっており、十分なオープンスペースとして周辺環境に大切に重要な機能を果たしており、JR清水駅を中心としたコンパクトシティーが形成されてきている。このような中で、そのオープンスペースの大切に重要な場所に清水市庁舎を移転することは、市役所職員約1,000人(説明会で市長が述べた)が移動することによる清水市庁舎周辺地区の経済波及効果を台無しにするとともに、現在ゆっくりと形成してきている清水コンパクトシティーの流れに水を差すことになると考えられる。そして、いま求められるコンパクトシティーは、産業道路である「しみずマリンロード」より山側の標高の低い地区の住宅群の再開発を推進するとともに大型地震による津波が巴川を遡上して江尻地区を中心とした標高の低い地区が浸水しないような大谷川排水路を活用した護岸改修(巴川河口付近に水門は設けない、水門を設けると折戸湾の水位が変動して上がり、小河川を津波が遡上し、村松地区が浸水するため)を行い、コンパクトシティーの中核であるJR清水駅地区・袖師地区・興津地区・由比地区・蒲原地区・そして反対側の清水市庁舎を含む静岡鉄道清水駅周辺地区・港橋を含む日の出再開発地区・市立清水病院を含む村松・駒越地区が連担する沿道型の都市構造として推進し、産業道路である「しみずマリンロード」の外側である臨海地区は、現在の日の出再開発地区のような民間によるGXに資する再開発計画を推進し、従前に衰退したウオーターフロントの復活を目指すものである。なお、都市計画決定された土地区画整理事業によって生じ、都市計画決定された都市公園に市庁舎のような公共施設を移転する場合は、土地区画整理事業による受益者の権利、都市計画決定された都市公園面積と同等な代替地など、都市計画マスタープラン・緑の基本計画の見直しが必要になる。さらに近隣公園である清水駅東口公園と同様な面積の用地を市街化区域の近隣公園の公園誘致距離内に求めることは現状では可能性が低いと考えられる。				○		まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 また、現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水市庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。
				127	要望	2	人口減少とDXの進展を踏まえた現市庁舎の規模を縮小した耐震補強工事を行い、清水区では地下施設がないのでスーパー台風や北朝鮮等の不慮な事故に対応するものとした。				○		新庁舎が供用開始となる数年後の時点においては、市職員や来庁者の数が現在から著しく減少する見込みはないため、直ちに庁舎規模を縮小した場合は市民の皆さんへの行政サービス提供に支障が生じるものと考えております。将来的な公共資産マネジメントを見据え、新庁舎は可変性の高い設計とするなどの対応を行ってまいります。 なお、新庁舎は津波等の災害対応の観点から地下フロアは設けない予定です。
				128	移転場所	3	計画地は企画で令和2年に調査した土質調査より、潮汐の影響を受ける軟弱地盤でありピロティ方式の建築基礎は、現在起きている大型地震でも分かるように多様な力が杭頭付近に働き破断し、建物の転倒を起こしている。このような悪条件の地に新庁舎を移転するのではなく、現在ゆっくりであるが市長が目指すというコンパクトシティーは進展していることを踏まえている。ちなみに、東海道新幹線の橋脚上部の接合部に厚い鉄板を巻き耐震補強しているので参考になると考える。				○	『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf	

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					回答
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	
45	清水区	70歳以上	その他	129	事業の進め方 整備方法 移転場所 地震・津波の被害、対策	1	<p>移転新築の基本方針 この度の移転新築方針は2020年の田辺前市長による清水駅東口移転新築案と全く同じです。5年経って、周辺の状況が変わったからと言いますが何も変わっていません。</p> <p>①状況の変化について 地震、津波の危険性に関する状況は全く変わっておらず、清水さくら病院の建設、河岸の市のリニューアル、駿河湾フェリー乗り場の移転は前市長のときにきまっております。ENEOSの空地利用の詳細は未だ不明です。これを状況の変化というのでしょうか。</p> <p>②行政の朝令暮改について この状況に基づいて現区庁舎の改修が決定されたので、この度の移転・新築は朝令暮改です。</p> <p>③清水区民の生活、子や孫達の生命について 行政の唯一最大の目的は住民の生活、生命を護ることのはずです。南海トラフ巨大地震・津波の災害が清水区民の最大の関心事です。清水駅東口公園は海岸から100m足らずの位置にあり、現区庁舎は600m内陸にあることから、田辺前市長は最終的に清水駅東口案を取り下げ、現在の区庁舎を改修することに決定しました。この度の移転新築方針ではこのことについて全く触れられていません。清水の街、区民の生活、私達の子や孫達の生命をどのように考えておられるのでしょうか。</p> <p>④千年に一度の津波について 難波市長は、国交省の災害対策室長であったと前置きされて、「千年に一度の津波襲来に対応する庁舎を造るのと、毎日利用する区庁舎の利便性のどちらをとるか」と論じられました(11月11日の市民説明会)。この考えは専門家として全くナンセンスです。市民は津波襲来を毎日怯えながら区庁舎を利用しているのです。また千年に一度であっても津波以後は区庁舎は役割を果たせなくなるのです。津波防潮堤の役割は津波の被害を弱めるだけであって、津波以後の利用は不能です。土木工学者である市長は、自然に対して人間の知恵、技術には限りがあることをご存じのはずです。</p> <p>⑤津波の機能について さらに、市長は、津波は岸に近づくエネルギーをかなり減衰するので、被害も少ないと説明されました。専門家の弁として納得できません。清水港、駅前船溜まりのような地形では逆にエネルギーは集中するというのが常識です。</p>					○	<p>①清水さくら病院、河岸の市、駿河湾フェリー乗り場等は実際に稼働が開始しており、2020年よりもまちづくりの進展があったものと認識しております。</p> <p>②最適な耐震改修を実施するため、2023年度に第3段階目の耐震診断の結果を実施し、「耐震改修費」と「老朽化した設備機器の改修費」を改めて算定しました。昨今の建設工事単価高騰の影響も受け、当初想定していた整備費用より大幅な増加が見込まれたため、2025年度に再度「改修案」と「新築案」を比較する必要がありました。</p> <p>③2022年度の検討では「ライフサイクルコスト」を重視すると現位置建替え案が優れているが、その場合、将来の清水駅東口への移転建替えに影響が生じることも考慮され、「清水都心地区のまちづくり方針」との整合性」に重きを置いて、「現位置改修/使用年数20年」案を選択しました。海岸からの距離に基づき選択したものでございます。</p> <p>④⑤災害に対する市の基本的な考え方については、以下の市HPをご参照ください。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>
				130	まちづくり 移転場所	1	<p>静岡市都市計画マスタープラン「静岡市都市計画マスタープラン;2016年」に従い、都市機能をコンパクトに集約していくには、清水駅周辺が清水庁舎の設置場所として最適であると難波市長は説明しております。</p> <p>①マスタープランについて この都市計画マスタープランは「街と港が融合する都心街づくり」と題されており、「清水駅東口周辺の街づくり」とは記されていません。「駅東口周辺」とするのは間違いです。「駅東口周辺」と範囲を狭く限定したマスタープランではありません。</p> <p>②マスタープランの現実性について このマスタープランも2006年に制定された後、社会・経済情勢の変化に従って、2016年に改定されたものです。即ち、マスタープランも年を経て、実情に合わなくなれば改定されるものです。一度決めた施策(A案)を状況が変化したからとして1~2年で移転新築に変更すると言いつつ、9年前のマスタープランには縛られるのでしょうか。</p> <p>③津波に安全な土地について 前記説明会において、「移転新築には反対でないが、なぜ津波が心配される清水駅東口にするのか。多くの市民、街づくりの団体(常葉大学・阿部都男副学長、同大学・小村隆史準教授、ふじのくに防災士会・真鍋明宏氏等は清水区の津波想定区域の街づくりをテーマに多くの市民の参加のもとで、市民セミナー、実地踏査を実施)では桜ヶ丘のような高台にすべきではないか」という意見が多くありました。難波市長はこれに対して、「マスタープランで、清水駅東口が副都心と既に決まっており、今から桜ヶ丘を賑わい中心とすることはナンセンスである」と言っておられます。上記①に記したように難波市長のこの発言、考えは間違っています。また、清水駅東口は、遠くない将来に津波襲来が必然であると多くの市民、住民が懸念している現在、②に記したように、過去のマスタープランに固執するべきでなく、最適の土地を新たに検討するべきです。</p>					○	<p>まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。</p> <p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>なお、静岡市都市計画マスタープランとの関係につきましては、2025年11月4日の市長定例会記者会見資料において移転場所については「新築する場所については、清水都心地区のまちづくりにおける主要計画である「都市計画マスタープラン」と「立地適正化計画」の理念から、清水都心地区については、JR清水駅周辺に都市機能をコンパクトに集約していくという大きな方針があります。」と説明しています。</p> <p>2017年度の「新清水庁舎建設検討委員会」の議論において清水のまちづくりについては「関連計画における清水都心地区は清水のまちの規模に対して広すぎるため、都心地区の中で交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約してこの地区の経済を活性化させていくことが望ましい」とし、市では現在もその考え方を大きな方針としています。</p>
				131	事業の進め方	1	<p>都市機能のコンパクト化と地震・津波 国(国交省)はコンパクトな街づくりを推奨し、補助金を出しています。しかし、地震や津波の危険地域は除外としています。</p> <p>①国の津波政策を無視することについて 巨大地震・津波が想定されている土地での行政施設の建設(B案)には国の補助はありません。国の津波対策の方針に逆らってもB案を採用するのでしょうか。</p> <p>②国の補助金を申請しない理由について B案の「価格評価表」では、「活用できる国の補助金と金額」欄は「-(申請せず)」となっています。上記①を認識し、津波の危険を認識した上でのB案の採用は、市民の生活、生命に関心がないということですか。</p>					○	<p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>また、津波ハザードマップ上の津波浸水想定区域に庁舎があるからといって、津波発生時において必要な庁舎機能がすべて維持できなくなるわけではありません。適切な対策を講じれば、津波浸水想定区域に庁舎があることが、直ちに防災上の問題とはなりません。</p> <p>新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p> <p>なお、『国はコンパクトな街づくりを推奨し(中略)地震や津波の危険地域は除くとしています。』というご意見については、国土交通省の「第13版 都市計画運用指針」(令和7年3月)において、市庁舎を含む都市機能誘導区域は「居住誘導区域内に重複して設定されるものであり、都市機能と併せて居住を誘導することが基本となる。」とした上で、津波災害警戒区域は「それぞれの区域の災害リスク、警戒避難体制の整備状況、災害を防止し、又は軽減するための施設の整備状況や整備見込み等を総合的に勘案し、居住を誘導することが適当ではないと判断される場合は、原則として、居住誘導区域(静岡市注:都市機能誘導区域と重複して設定)に含まないこととすべきである。」と記載があります。それを踏まえ、静岡市では立地適正化計画において、「災害リスクを有するエリア」のうち「防災対策により将来的に災害リスクの低減が見込まれるエリア」は「居住を促進することが好ましくないエリアに含めない(つまり、防災対策により災害リスクの低減が見込まれるエリアは都市機能誘導区域及び居住誘導区域として設定が可能)と判断しています。</p> <p>また、国土交通省は今後、海抜が低い都心部の水害対策を支援する方針で、住宅街と庁舎やオフィスビルなどをつなぎ浸水区域外まで避難できるデッキの構築などがその対象として具体的に想定されています。</p>

回答者No	住所	年齢	職業	意見No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					回答		
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)			
45	清水区	70歳以上	その他	132	事業の進め方	1	清水駅東口へ移転新築 難波市長は2024年の市長選挙に当選される前から、清水区庁舎の移転建築に関心を持たれていました。①状況の変化について 難波市長は、清水さくら病院の建設、河岸の市のリニューアル、駿河湾フェリー乗り場の移転、そしてENEOSの敷地の一部取得により、駅東口の状況が変わったことで街づくりが可能になったとしておられます。しかし、これにより周辺道路の混雑化が生じます。また、ENEOSの敷地利用の詳細は未だ不明です。また、2020年の田辺前市長による清水駅東口案に対して、市民、住民の津波災害を懸念した民間企業は入札に応じませんでした。この度も津波に対する危険性、そしてこれに対する市民の反応は全く変化しておりません。従ってこの度も、民間企業の参加は期待できません。「状況の変化」はB案が適する理由にはならないのではないのでしょうか。②再検討の期間について 難波市長が市長選挙に当選される前から区庁舎の現地改修は決定していました。状況が変わったとしても、一度決定したものを変更するには、それなりの時間が必要です。特に区庁舎は永い年月にわたって区民の生活、生命を護る大本です。市長当選後、再検討を行ったとしておられますが、たった1年で十分な検討ができるでしょうか。市長の意向に沿った資料を市職員に揃えさせ、辻褄を合わせたと勘ぐられます。市長は、そのような強引な指導はしていないと前記説明会で回答されましたが、あまりにも再検討の期間が短くないでしょうか。田辺前市長が提出した清水駅東口案を糺塗しただけものと感じられます。あまりに杜撰、朝令暮改ではないでしょうか。そのように移転新築を急ぐ理由はなんなのでしょうか。						○	「周辺道路は混雑化が生じます」については、交通量が増えなくてもJR静岡駅を見ればわかるように、交通量が多いことで混雑化するとは限りません。混雑化して問題が発生しないよう、例えば、JR清水駅(スペース削除)周辺のJR東海道線と多くの路線バスが接続する公共交通利便性の高さを活かし、公共交通利用を促進することや、清水駅西口を含めた周辺の既存駐車場を有効活用する対策を進める等、適切に対処します。 清水庁舎の整備については2023年度に現市長が「現時点において、清水駅東口には庁舎の移転先としての十分な用地がなく、かつ、清水庁舎の耐震改修は緊急を要するものである。ライフサイクルコスト(使用期間(例えば20年)の全体を通じた整備・維持管理の費用)の観点からは、これまでの検討状況では現位置改修案は最適案ではない。しかし、清水庁舎の状況を鑑み、緊急回避策として現位置改修案を選択することとし、最適な補強方法を判断するために、耐震性の詳細な検討を実施する。ただし、耐震性の診断結果によっては、結論が変わることもありうる。」とし、再整理を行いました。 その結果、耐震性の詳細な検討の結果、清水庁舎の耐震性能は「十分なものではない(本震により、建物全体に変形が残る危険性があり、直後の避難行動は確保できるが、余震に対しては安全確保が困難になる場所が発生する可能性がある。なお、地震により建物の崩壊に至る危険性は低い。)」と判断しました。加えて、2022年の検討時から大幅に改修費用が増加したことから、2025年3月に改めて新築案を精査し、改修案と比較検討することを説明した上で、11月に「2025年度 清水庁舎の整備方針(案)」を発表しました。 このように2年をかけて耐震性の診断を行っております。「あまりに杜撰で朝令暮改」というのは、誤解と考えます。 ○ <参考:難波市長就任後の事業経過> ■ 2023年7月 ・新市長が「清水庁舎の最適な補強のための耐震性の詳細な検討について」を発表 ■ 2023年8月～2024年3月 ・耐震性能の「第3段階目の診断」を実施 ■ 2025年1月 ・「市の第3段階目の診断結果」と「耐震評定の結果」(第3者評価)の両方を踏まえた両庁舎の耐震性能の最終報告を公表 →「庁舎の耐震性能は十分なものではない(本震直後の避難行動は確保できるが、建物全体に変形が残る危険性があり、余震に対しては安全確保が困難になる場所が発生する可能性がある)」 ■ 2024年4月～2025年3月 ・「老朽化した設備の現状調査」を実施 ・「第3段階目の診断」と「老朽化した設備の現状調査」の結果を踏まえ、清水庁舎の最適な補強案を検討 ■ 2025年3月 ・市長記者会見で清水庁舎の最適な補強案の詳細を公表 ・併せて、2022年度の検討時から大幅に改修費用が上昇したことから、改めて新築案を精査し、改修案と比較検討することを説明 ■ 2025年11月 ・「改修案」と「新築案」の比較検討の結果、価格点・性能点のいずれにおいても「新築案」が優位であると評価したことから、清水庁舎の整備は「移転新築が適当である」と判断し、「2025年度 清水庁舎の整備方針(案)」を発表	
				133	事業の進め方	1	客観性のある検討 ①行政内部での検討について この度の案(B案)は市(行政)内部だけの検討によるもので、客観性がありません。前回(2022年度)の結論は、外部の有識者、市民委員による10人の委員会での検討結果に基づいています。この度は市民の意見、判断が全く入っておりません。 ②検討委員会の設置について 前回のように外部の有識者、公募による市民委員による検討委員会を設置して、市が提出したこの度の案を再検討すべきです。						○	①②ご指摘のとおり、今回の結論は市の内部検討の結果であるため、公開するにあたり、当局の判断に対する客観的視点(評価)を2022年度に設置した「清水庁舎整備検討委員会」の有識者5名に求めました。	
				134	構造 地震・津波の被害、対策	2	災害時は津波を通過させるピロティ機能、平常時は駐車場”とすることでしています。災害は平常時に前触れなく突然起こることを忘れているのでしょうか。平常時に駐車場としていれば、突然の津波により車は流動・衝突して建物構造を破壊し、流された車は背後の住居、住民に激突し、周辺地域の災害を加速します。これは常識です。	○							いただいたご意見を踏まえ、ピロティ形式の採用とあわせて津波漂流物の衝突に強い構造とする計画といたしました。
				135	各案の評価	3	B案の優位性 A案とB案を数値で比較していますが、合理性、説得力が全くありません。根拠、手法が明確でない数値化は、以下のように、市民の目を逸らすための意図と思わざるを得ません。 ①「価格(費用)」を「性能」に比べて重視していることについて 価格(費用)での評価点(594点)を性能での評価点(396点)の1.6倍にしており、価格を重要視した理由が理解できません。田辺前市長の時は、それぞれ別個に評価しています。「費用」と「性能」は全く視点が異なり、同一次元で優劣を論ずることはできません。このように費用を性能に比べて重視するのであれば、その理由を市民が納得できるように明示せねばなりません。 ②評価点の設定について 価格評価の総点数を594点とした理由はなんですか。 性能評価の総点数を396点とした理由はなんですか。 性能評価で△を12点、○を24点、を36点とした根拠が示されていません。 数値での比較は客観的なようですが、その根拠がなければ、市民の目を逸らすためのものと思われません。 ③総価格と年間あたりの評価について 年間あたりの費用でなく、総費用で比較したらA案が廉価であり、総合評価でもA案が優位となります。田辺前市長の時は、総費用で評価しています。 ④性能点の評価について 「性能」11項目の内、4項目において、前回に比べてB案では高く、A案では低く評価しています。前回のものは検討委員会での議論の結果ですが、今回はそのような客観的な議論がなされていません。 ⑤上記を考慮すれば、A案とB案の数値的な差には有意性はないとせねばなりません。							○	①②2022年度の検討時から大幅に改修費用が増加したことにより、改めて新築案と改修案の比較検討を行ったことから、大きな全体配点(990点)の6割(594点)を価格点に4割(396点)を性能点に配分しました。なお、仮に価格点と性能点の配点割合をそれぞれ5割にしても、比較検討結果は新築案が優位となります。性能点の評価項目の配点については、合計396点を11項目で等分して1項目36点としています。 ③ハード事業の比較検討においては、寿命の異なる設備を公平に比較し、実際の年間負担を正しく把握できることから、年間あたり費用による評価が評価基準として一般化しています。 ④当局の判断に対する客観的視点(評価)を2022年度に設置した「清水庁舎整備検討委員会」の有識者5名に求め、反映しております。 ⑤上記ご回答のとおりです。

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					回答	
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)		
45	清水区	70歳以上	その他	136	事業の進め方	3	2022年度整備検討委員会の見解 2022年度の清水庁舎整備検討委員会の委員5人に了解を得たとしています。 ①検討委員会の同意 委員は10人であったはずですが、残りの5人はB案に同意したのでしょうか。 市長定例記者会見資料によれば、了解したとされる5人の委員も必ずしも同意していません。また、点数配分にも同意していません。 ②委員個々に別個に了解を得たのでは、委員会の結論といえません。この検討委員会としては「改修して残して頂きたい、市民のシンボルでもあり、清水が発展してきた文化・歴史でもある」としてA案が採択された経緯があります。 A案からB案への突然の変更は奇異です。市が委嘱した委員会であるのに、その委員会の存在が否定されたことになります。						○	2022年度に設置した「清水庁舎整備検討委員会」の委員の皆様への委嘱期間は2023年3月31日までとなっております。 今回の検討過程で実施した第3者評価については、専門的知見から客観的な意見・評価を受けるために、事業経過に精通している「清水庁舎整備検討委員会」の検討委員のうち、学識経験者5名にご協力をいただいで実施しました。
				137	パブリックコメント 事業の進め方	3	パブリックコメント この度、B案についてパブリックコメントを募集しています。 ①コメント募集方法について B案を大前提としてのパブリックコメントでは、反対意見はできません。A案についても、またその他についての意見を求めるべきです。 ②反対意見について 前回(2022年度)においても、反対のコメントは整理の段階で抹殺されました。これでは、市民はパブリックコメントに真剣に応じないでしょう。 ③市民の意見について 市民のための区庁舎です。行政の都合を極力排除して、市民のためを考えてください。 ④市民との対話について 市民の意見を知るために、また、行政の考えを周知するために、市民集会(タウンミーティング等)を区内の各地で開催してください。 ⑤パブプロムの整理、検討 前回のパブプロムは市役所アセットマネジメント課の1職員が整理し、纏めました(市に確認しました)。極めて恣意的な整理で、客観性がありませんでした。この度は、部外者を加えて、市民が納得できる整理、結果を公開してください。 ⑥署名活動について 田辺前市長が区庁舎移転建設案を提出したときには、住民投票で市民の意向を確かめて欲しいと署名活動が進められました。コロナウィルス蔓延により署名活動が制限されたにも拘わらず、法定数の4倍を超える署名が集まりました。署名の半数は、清水区庁舎に直接関係しない葵区、駿河区の住民によるものでした。清水区だけの問題ではないと静岡市民全体が危機感をもっていることの表われです。						○	①整備方針(案)への自由意見聴取となりますので、B案新築に限定したものではありません。 ②2022年度に実施したパブリックコメントについては、提出された全ての意見について、「方針に反映済み」「方針に反映する」「今後の参考にする」「その他」のいずれかの対応を示した上で、市の考え方を記載して公表しておりますので「2022年度においても、反対のコメントは整理の段階で抹殺されました」というご指摘は事実ではありません。 ③④今回の方針(案)については、「パブリックコメントの実施」「市民説明会での意見交換」に加え市民の皆さんのご意見を広く把握するため「来庁者アンケート」を実施するなど複数の手法で幅広く市民の皆さんのご意見をお聞きしています。 ⑤②でご回答のとおりです。 ⑥清水庁舎の整備検討につきましましては、区役所部門だけではなく経済局、教育局といった本庁機能が配置される市全体の庁舎として整備を検討しております。ご意見を受け止め、市民の皆さまが快適にご利用できるよう庁舎の整備に努めてまいります。
46	葵区	30代	パート・アルバイト	138	整備方法 移転場所	1	清水庁舎の「移転新築案」についてこのまま事業推進していただきたいです。防災機能について 思い入れのあるであろう古い建物を壊しむことや、「著しく発生確率が低い大災害」に過度に配慮して現状維持で足踏みすることよりも、今、目の前にある建物の安全性の課題を最優先して解決し、清水の未来に投資することが必要だと考えます。そもそも、地震、津波、山崩れ、地盤沈下など、この世に発生し得る全ての災害のリスクがゼロの場所を市内に探すのは不可能です。現行案の立地は津波の浸水区域内ですが、新庁舎は災害対策の「本部機能」を置かないという位置づけとのこと。ヒロティ構造などの対策でリスクを可能な限り低減すれば、一般業務を担う区役所建物としては十分に妥当だと判断します。						○	速やかに新庁舎を整備し、清水駅東口の防災力を高めるとともに、JR清水駅周辺への都市機能集約を進め、清水のまちづくりを前進させてまいります。
				139	まちづくり 事業の進め方	1	まちづくりについて 都市機能が駅前集約されることは、清水の再生に欠かせないと考えます。現在、以前と比べて東口周辺の民間の動きが明確な形になり、まちづくりの機運が非常に高まっていると思います。実際にさくら病院等の民間の建物が開院済みですし、駅前をより充実させるための公園や駐車場の配置についても、ENEOS用地活用という選択を含めて柔軟に検討できる状況になっていることです。現段階ですでに民間活力が先行していることで、庁舎が民間投資の「呼び水」となる役割がよりスムーズかつ確実に達成可能になったのではないのでしょうか。このタイミングで移転新築することが、今後のさらなる発展や民間投資を呼び込む上で、最良の契機となると考えます。タイミングを逃さず、事業推進すべきと考えます。						○	速やかに新庁舎を整備し、清水駅東口の防災力を高めるとともに、JR清水駅周辺への都市機能集約を進め、清水のまちづくりを前進させてまいります。
				140	求める機能	2	区役所機能だけでいいと思います。						○	区役所機能以外の組織については、その一部を既存施設へ分散配置する予定です。
47	清水区	70歳以上	その他	141	整備方針	1	反対です。これから20年30年先の区庁舎の在り方に付いて何も考えていないと受けたの在り方に付いて						○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				142	求める機能	2	逆に聞きます。どの様な機能を持たせたら市民へのサービス利便性が良くなるのか示して頂きたい。							○

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答
47	清水区	70歳以上	その他	143	まちづくり求める機能	3	<p>先ずは、この事がキチンと捉えて居なければどの様な規模でどんな所でどの様な市民サービスが出来るのかを把握する必要がある。</p> <p>街創りに付いては清水の街の成立、歴史文化を象徴出来る現在地がベストと思っています。現在、清水みなとまちづくり公民連携協議会が「ひらく・みなとまち」でランドデザインを示しています。ここに示されている中心市街地活性化基本計画区域と占めています。</p> <p>清水の中心は現在地であって、一部分庁舎機能を駅東口に移して賑わいを創設出来るとは考えられません。かえて今の庁舎の存在意義を無くして中心地域が空洞化が起きると思います。</p> <p>初めに書きました様に、先ずは庁舎機能役割市民サービスのデザインをしっかりと描く必要があります。</p>				○		<p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p>
48	清水区	70歳以上	その他	144	整備方法 移転場所	1	<p>現庁舎の老朽化による耐震不足による新築はやむを得ないが、わざわざ津波浸水区域に指定されている場所へ移転すること自体は疑問が残るもの、想定されている津波高を考慮し十分な安全高を確保されたい。</p> <p>もともと駿河湾を回る海流によって土砂が運ばれてきたところでもあるので、液状化や地盤沈下に関しては十分な対策を建てること。</p>				○		<p>津波に対する考え方としては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>
				145	求める機能	2	海洋文化都市の核としてふさわしい景観と機能を備えること。				○		<p>いただいたご意見を踏まえ、周辺の街並みや景観に調和するとともに、ENEOS地域づくりエリアの玄関口として適切な景観を形成し、自然景観やマリナートの周辺既存建築物の景観と調和した計画としました。</p>
				146	現庁舎の跡地利用 まちづくり	3	<p>先の意見でもお願いましたが、現庁舎付近は戦後清水の中心であり、特に市役所は戦後復興に象徴として市民に親しまれてきました。特に「さつき通り」は清水の背骨として産業経済を支えてきました。その中では現庁舎の存在が大きく、訪れる市民やそこに働く職員の購買力がおおきな支えとなっていました。合併によりその構図は大きく崩れ、瞬く間にまちの灯は消え、小売店はほぼ壊滅状態、飲食店も激減し、かつての清水はどこかへ消えてしまい、昔を知っている者にとっては誠に寂しい限りです。庁舎の移転はさらに衰弱に拍車をかけ、冷え切った街に向かっていくことは目に見えています。老朽化や耐震不足という構造的なことが目立ち、中心が移転した後の状況には何も触れられないなど誠に恐ろしいものがあります。是非、移転と同時に「さつき通り」を軸として海洋文化都市も見据え、庁舎の跡地利用も含めた「中心部のランドデザイン(高齢者にもやさしいまちづくり計画)」の策定(市民の安心感の醸成)をお願いいたします。</p>				○	<p>まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。</p> <p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>現清水庁舎については、2023年度の精緻な耐震診断でより精度高く耐震性能が把握できました。耐震改修や設備改修には多額の費用がかかる一方、建物自体は大地震時も倒壊の危険性は低いことから、耐震改修や大幅な設備改修を行わず、必要な部分改修を行ったうえで、利用方法や用途について行政利用に加え民間活用も検討し活用することとします。</p>	
49	清水区	40代	公務員	147	移転場所	1	清水駅東口に区役所作る案は大反対。主な理由は立地。				○	<p>まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。</p> <p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>	
				148	求める機能	2	現有力地では不可能だが、別場所(辻1丁目の名商パーキング等を用地買収)に津波避難タワーを兼ねた立体駐車場を併設。				○	<p>駐車場については、ご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、新庁舎・駅とペDESTリアンデッキで連結して利便性を確保する計画としました。</p> <p>レベル2津波に対しては西口駐車場で約3,000人の避難者受け入れが可能です。大津波警報が継続した場合(最長3日程度を想定)は、駐車場・駅とペDESTリアンデッキで連結する新庁舎で帰宅困難者等を清水さくら病院(津波避難ビルに指定)と連携して受け入れ、避難者の安全を確保します。</p>	

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え						
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答	
49	清水区	40代	公務員	149	移転場所 駐車場 交通	3	清水駅目の前で、電車でアクセスは超良い。バス停は西口にあり、かなり歩くためやや不便。車は駐車場がなく、超不便。敷地狭すぎて、立体駐車場は無理だし、海近くで地下駐車場も作れない。市の担当課の回答では、来庁者が東口に車で来ないよう、西口のパーキング利用を促すとか書いてあったが、コインバ止めて、用もない駅の中通って、わざわざ5分10分歩いて区役所なんて行かないでしょうよ。非現実的過ぎる。電車利用も促すらしいけど、そもそも区役所に電車で来る文化はここ静岡にはない。せいぜい草薙駅近くと、興津駅近くの数百~数千人くらいしか使わないのでは。残る大多数は役所に行くために電車なんて確実に使わない。人の往来は多少あるが、東口に広がりはなく、道路が混雑する可能性が大。ただでさえ、河岸の市、フェリー、マリナート、病院とある中、スタジアム構想がある。スタジアムが出来た際は、間違いない大混雑。試合が無い日もショッピングで賑わうようだと、平日でも南北のマリンロードは大渋滞必至。ずっと昔にJRが立体化していれば、西と東の往来ができ、また広がり可能性はあったが、あまりにも道が少なく、線路が邪魔して大多数の西の人間が行きづらい場所である。海近くアンダーパスも作りづらい。大踏切の近くで電車の往来の多さを見たことがない？北側の踏切の混雑を知らない？今の庁舎は南幹線に抜けるから、何とかなっている。住民サービスの観点から、車所有率の高い清水区においては、駅近くの立地は全く意味をなさない。	○						駐車場については、ご意見を踏まえてJR清水駅西口に新設し、新庁舎・駅とペDESTリアンデッキで連結して利便性を確保する計画としました。 また、周辺道路等の交通基盤については、当地区のまちづくりを進めながら対応してまいります。
				150	移転場所 地震・津波の被害、対策	3	あまり津波のことは言いたくないが、海近で防災拠点には程遠い場所。時間外に浸水した際の防災拠点は東大曲の消防署となっており、おかしな話であり、不安と矛盾を感じざるを得ない。						○	新庁舎は津波浸水区域に位置するものの、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 「レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方」の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf
				151	事業手法 民間機能	3	ただのJRの一駅が目の前にあるだけで、新幹線が止まる静岡駅とは違う。思うほど良い立地ではないことを自覚して構想すべき。テナントスペース設けても、時期が来れば撤退ラッシュでガラガラになり、赤字という未来が目に見える。さらなる赤字行政を生みかねない。行政側が稼ごうなんて償れないことしないで、リスクは避けて、役所は役所として存在してくれればいい					○		まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり具体的な機能を検討してまいります。
				152	駐車場	3	職員だって、公用車止める場所がない、もしくは少ない。散々歩いて車を取りに行く羽目に。時間の無駄は、住民サービスに影響が出て、無駄な時間外勤務が増えること間違いなし。車社会の清水において、とても非合理的である。					○		公用車駐車場については、現庁舎の駐車場等の活用を想定しています。いただいたご意見も参考に、今後詳細を検討いたします。
				153	まちづくり 整備方法 移転場所	3	スタジアムは広島のスウェーデンを参考に3万規模を想定していると聞く。これも非現実的過ぎる。私も行ったことがあるが、広島スタジアム立地は、川こそ背負っているものの、路面電車が、アストラムラインという電車が、当然バスもあり、様々なアクセス手段があるわけで、海と線路に挟まれて身動き取れません、という清水の現地とは全く環境が異なる。もっと、周辺環境を整備してから色々作らないと、ただでさえ土地が無いのだから…スタジアムも立地問題で反対的立場だが、仮にスタジアムを作るなら、そちらに民間テナントが入ればよく、役所がそこにある意味は更に薄れる 以上のことから、清水駅東口への建設は取りやめにした方がよい。 現庁舎に建て直すなり、駅近くにくだわるなら、辻1丁目の駐車場がたくさんある土地を用地買収するなりした方が絶対に良い。					○		まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 現清水庁舎の耐震性は、十分なものではなく、設備の老朽化が著しいため、一刻も早い整備が必要です。そのため、清水のまちづくりの基本的な考え方を踏まえ、速やかな庁舎整備が可能である市有地の清水駅東口公園を庁舎の建設地に設定しました。 新庁舎の整備は、清水のまちづくりにおいての先導的な役割を果たす事業として、JR清水駅東口に直結した高度な都市機能を備える民間・行政複合ビルとして整備する計画としました。
				154	整備方法 移転場所	1	大反対。							○
155	求める機能	2	今と同じ機能							○	いただいたご意見を踏まえ、庁舎機能を検討してまいります。			

回答者No	住所	年齢	職業	意見No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え						
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答	
49	清水区	40代	公務員	156	事業の進め方 移転場所 地震・津波の被害、対策	3	遅ればせながら11月の市民への説明会の内容見ました。 すくく市民からの反対意見が出て、これは広く市民から意見求めるべきだと思います。パブリックコメントはわかりましたが、住民アンケートって本当にやったんですか？住民投票の仕組みがよく分かりませんが、大金かけて以後65年とか、もっと長く使う施設だから、やれたらやるべきでは？ 色々資料見ましたが、現庁舎と新庁舎案の面積がほぼ同じって、建物は同じだけど、平面駐車場ないし、地下駐車場もないし、建物だけで比較してほしくないですね。なんか騙しの手法に感じます。 あと市長の発言で、民間が建てれば資料だけで済むとか言っていましたけど、そこそそ市民の方が言う通りアテがあってから言うべきことで、それも、あくまでも決定事項に従わせるために甘言を用いた詐欺的発言に聞こえますね。 建設費の件も実際どうなんだかって勘ぐる気持ちもわかります。 市長は、大規模地震を懸念する意見には、1000年に一度だとか科学的根拠に乏しい意見で必死に反論してねじ伏せようとしていて、がっかりしました。苦笑れますよ。 あの場所で作ったら、公的施設が有事のときに動けない、招集すらできない、防災拠点にならないのだから、リスクしかないってことですよ、それを避けて建てるのが普通でしょう、それに勝る価値はあの場所にありますよ。 どこもかしこも、2011の後、海から離れたよな？公的機関なら尚更ですよ。 清水駅を中心に発展という思惑はわかりますが、西口と東口は全く連携できてないです。有事には清水駅の連絡通路通るとか？車は無理ですよな？ それと、現区役所には需要がないのでバスがきてないと発言ありました。これも、おかしなことで、現状皆バスでは区役所に行っていないという証。つまり、皆車で役所に行ってるんですよ。 いろんなことが矛盾してて、びっくりです。現状見てほしい。リスクがあって不便な庁舎なんて、いりません。ちゃんと反対意見聞いて、適切な場所に普通の庁舎作ってください。私は、現庁舎位置での建て替えか、辻1丁目の駐車場の場所が良いと思います。誰か市長説得して考えを改めさせてください。全国からバカにされます					○	2025年12月に実施した清水庁舎来庁者アンケートでは、整備方針について、回答者の69.0%が「清水駅東口公園への新築」を選択し、「現庁舎の改修」は11.9%、「どちらとも言えない」が19.1%という結果でした。 まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくということが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するよう設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。 『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf 以上より、ご意見にある『科学的根拠に乏しい意見』というご指摘につきましては、事実ではないと考えております。 なお、当事業は時間をかけて様々な角度から議論を重ね、その過程では有識者のご意見を伺い、パブリックコメントで市民の皆さんの意見を徴取し、手続きを進めていますので、住民投票の実施にはなじまないと考えております。	
50	清水区	60代	会社員	157	整備方法 移転場所	1	これからの開発が見込まれる地区であり、駅近で利便性も高く適切な選択であると思う。						○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				158	求める機能	2	①京都市役所の様な子供達が遊べる常時開かれたオープンスペース ②今の清水にない大人数が集まれるホールルーム。						○	いただいたご意見も踏まえ、「日常の動線上にあり、ふと立ち寄りたくなる庁舎」を目指し、市民の皆さんに使用していただける機能を備え、市民の利便性と職員の働きやすさを向上する計画としました。また、最上階に式典等を行える大規模な会議室機能を整備する予定です。
				159	駐車場 交通	3	①今後開発されるエネオス用地と合わせ、東口エリアでの駐車場整備が必要。 ②東口スタジアムや西口との連携を視野に東西2階レベルでの人流動線アクセスの整備。 ③JRを跨ぐ港湾道路と旧国道との車両動線の整備。 ④日の出地区や三保地区と結ばれる海上も含めた新交通、交通網の整備。 以上についても清水庁舎整備と同時の検討をお願いいたします。					○	いただいたご意見も踏まえJR清水駅西口に駐車場を新たに整備し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結することにより、市民の皆さんの利便性を確保する計画としました。既存の清水駅東口駐車場も活用し、駅の東西から新庁舎への移動を容易にし、交通量を分散する予定です。 周辺道路等の交通基盤整備についても、当地区のまちづくりを進めながら市民の皆さんの利便性を損なわないよう対応してまいります。 交通網の整備については、鉄道や路線バス、水上バスなどの既存の交通手段に加え、新たな移動手段の検討も進めてまいります。	
51	清水区	70歳以上	専業主婦(夫)	160	整備方法 移転場所	1	「地震による建物の崩壊に至る可能性は低い」ということであるならば、ユースで流れていた千年に一度の災害にわざわざお金を掛けて移転新築する必要はない。「A案:改修」で十分と思う。					○	現庁舎の耐震性能は「十分なものではない(本震により、建物全体に変形が残る危険性があり、直後の避難行動は確保できるが、余震に対しては安全確保が困難になる場所が発生する可能性がある。なお、地震により建物の崩壊に至る危険性は低い。)」と判断しております。 現庁舎では建物が崩壊に至る危険性は低いものの、来庁者の皆さんの余震時の避難行動や、その後の庁舎としての業務継続に課題があり、その課題解決に必要な改修案よりも、価格・性能の両面において新築案が優位であると判断しました。	
				161	現庁舎の跡地利用	3	移転新築しても現庁舎は引き続き一部活用するのであるなら移転の意味はない。改修して全建物を使えばいい。					○	現清水庁舎については、2023年度の精緻な耐震診断でより精度高く耐震性能が把握できました。耐震改修や設備改修には多額の費用がかかる一方、建物自体は大地震時も倒壊の危険性は低いことから、耐震改修や大幅な設備改修を行わず、必要な部分改修を行ったうえで、利用方法や用途について行政利用に加え民間活用も検討し活用することとします。	
52	駿河区	60代	公務員	162	評価方法 駐車場	3	今回の検討は、建物の改修か新築かの比較を行っていますが、付随の駐車場機能についても、評価に加えるべきだと思う。原位置であれば、周辺に何十台もの用地が確保されているのに、移転先には用地は確保されておらず、エネオス跡地への確保には別途費用が生じるだろうし、距離的にも遠くなるのが想定出来る。 また、JR清水駅に近いことが評価されているが、区役所に用事がある市民がJRを利用するのも疑問です。 以上の通り、建物本体だけではなく不随する機能についても評価するべきだと思います。					○	駐車場機能の評価につきましては、性能点における「事業実現性」の部分で評価を包含しており、改修の評価は「○:24点」で新築の評価は「△:12点」となっております。 なお、駐車場については、いただいたご意見も踏まえてJR清水駅西口に駐車場を新たに整備し、駅・新庁舎とペDESTリアンデッキで連結することにより、市民の皆さんの利便性を確保する計画としました。	

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え						
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答	
53	清水区	70歳以上	その他	163	整備方法 移転場所	1	従来から津波浸水区域に医療機関、行政機関、学校施設を新たに建設する計画については、市民の生命を守るという安全確保の観点から反対してきました。今もその気持ちは変わりませんが、清水駅東口地区のまちづくり・活性化に反対するものではありませんし協力もいたしますが、今回の清水庁舎移転新築計画には反対です。 清水庁舎の移転新築には反対ですが、取てまちづくりにおける利便性を考えるとすれば、市民サービス(諸手続きや相談)の窓口機能や来訪客への観光案内・相談窓口機能などではないでしょうか。						○	<p>まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。</p> <p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>津波に対する考え方としては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p> <p>なお、観光案内につきましては、現在、するが企画観光局による清水駅前観光案内所がJR清水駅西口にありますので、いただいたご意見を踏まえ、地区全体として新庁舎に必要な機能について、関係団体とも連携しながら検討を進めてまいります。</p>
				164	事業の進め方 移転場所 地震・津波の被害、対策	3	市長は、レベル1やレベル2への対応説明、電源の話、ピロティ方式、防潮堤、水門設置などの説明を駆使して、1000年に一度への対応も考慮してあるから心配ないとし、まちづくりを優先して清水庁舎の移転新築へ誘導しているように思えます。プロの行政マンが行っているから津波災害対応も問題なしとしていますが、1000年に一度への対応も毎日の利用対応も共に大事な事柄で、このような二者択一をせざるような発言は好ましいものではありません。 果たしてこのような説明で市民が諸手をあげて清水庁舎の移転新築案に賛同できるでしょうか？異常ともいえる各種の大災害が日本だけでなく世界中で頻発している昨今であるからこそ、人間は自然災害の脅威に対してもっと謙虚になり、真剣に対応を考えなくてはならないと思います。最低限、危機管理や災害対策の中核機能は、津波浸水区域外の高台に位置すべきです。					○	<p>まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者なども含め誰もが安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。</p> <p>清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。</p> <p>津波に対する考え方としては、新庁舎は、発生頻度が比較的高いレベル1津波においては、地震直後は緊急避難場所として機能し、その後は災害対応拠点として機能を発揮し、レベル2(の中でも最悪の事態)の地震・津波が発生した場合であっても、重大な損傷を受けることなく、地震発生直後は津波緊急避難場所として機能を発揮するような設計を行い、同地区の防災力を高めてまいります。</p> <p>また、市長の発言は「毎日」と「1000年に1回」を比べているのではなく、「毎日の利用の利便性が重要」、「1000年に1回の津波に対しても何らかの対処が必要」であることを述べています。確かに、1000年に1回の発生確率であっても、今日、発生することは否定できません。よって、それへの命を守る備えは必要です。しかし、その発生の可能性は極めて低いと認識しています。</p> <p>また、発生確率が比較的高いレベル1の津波に対しては、人的被害をゼロにするとともに、物的被害を縮小させる防災の取組が必要でです。</p> <p>『レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態(規模・発生確率等)とそれへの対応の基本的考え方』の詳細については、以下の市HPをご参照ください。</p> <p><2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf</p> <p><2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf</p>	
54	清水区	60代	自営業	165	整備方法 移転場所	1	移転新築には賛同する						○	<p>いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。</p>
				166	現庁舎の耐震性	2	現庁舎を再利用するならば、耐震性能調査(耐震診断)を、正確に実施して欲しい。不正確な耐震診断に基づく再利用計画は、市に損害を与えることになる。不正確な点は次の点である。 (1)時刻歴応答解析を実施した段階では、三次診断による判定を撤回すべきである。 (2)「安全性の目安、最大層間変形角1/100以内」は、RC建築物に対する目安であり、SRC建築物であり鉄骨ラーメン構造を内包する清水庁舎には、その目安は適用できない。 (3)日本建築センターで評定を得た時刻歴応答解析は、超安全側(地震力は超巨大、建物解析条件は応答が最大に大きく出る条件)なので、安全性を証明することには使えても、危険性を指摘する目的には利用できない。					○	<p>令和5年度に第3段階目の診断として、「建築基準法」の規定に基づく「時刻歴応答解析」(動的解析手法)、参考として「日本建築防災協会 耐震診断基準・同解説」の規定に基づく「第3次診断法」(静的な手法)を実施しました。診断結果は、第三者機関である一般財団法人日本建築センターに申請し、令和6年12月20日にその結果(耐震評定)を受領しました。 (1)時刻歴応答解析と第3次診断法は診断する手法が異なり、どちらの判定結果が優劣、正否を示すものではありません。 (2)建築基準法の第20条に建築物の構造耐力に関する規定があり、第1項第1号は高さ60mを超える建築物、いわゆる超高層建築物を設計する際に時刻歴応答解析を用いて設計することとなっています。しかし、その際に層間変形角をどの程度に抑えるかについては規定がなく一般には1/100以下に抑えることが「事実上の基準」となっています。 (3)(1)で回答のとおり時刻歴応答解析と第3次診断法を基に、清水庁舎の耐震性能(安全性)について評価をしました。</p>	
55	清水区	40代	公務員	167	整備方法 移転場所 公園・イベント広場 要望	1	清水駅東口公園は、そこで行われている催事の様子が清水駅のホームや駅に停車中の電車の車中からも見える。このようにそこを通過する人にも催事の様子が見えることは、その街の活気が感じられ非常に良いと思う。このような場所は他になく、催事の場として貴重である。駅近くへの移転は構わないが、このような駅から見える催事場の機能は失われることがないようしてほしい。検討されているサッカースタジアムとあわせて考えるなどし、なるべく無駄がないようにしてほしい。					○	<p>現清水庁舎の耐震性能は、十分なものではなく、設備の老朽化が著しいため、一刻も早い整備が必要です。そのため、JR清水駅周辺に都市機能を集約して同地区を活性化し、清水のまちを再生するという清水のまちづくり方針を踏まえ、速やかな庁舎整備が可能である市有地の清水駅東口公園を庁舎の移転候補地に設定しました。</p> <p>なお、ENEOS社用地については、2月17日の市長記者会見でその利活用の方針を発表したところですが、現在の清水駅東口公園のイベント広場機能につきましては、清水庁舎の移転新築工事期間中からENEOS社用地を含めたエリア全体としてその機能を確保してまいります。</p>	

回答者 No	住所	年齢	職業	意見 No	意見の種類	質問	ご意見	本市の考え					
								①方針に反映する	②既に方針に盛り込み済	③今後の参考とする	④方針に反映できない	⑤その他(感想、方針(案)以外のご意見等)	回答
56	清水区	40代	会社員	168	整備方法 移転場所	1	賛成です。					○	いただいたご意見を踏まえ、市民利便性が高く、災害に強い庁舎を整備してまいります。
				169	求める機能	2	清水は、横浜や神戸、函館と肩を並べるだけの高いポテンシャルを持つ地域だと思えます。この力を発揮する為には、3つの点に力を入れなければならないと思います。 ▼1つ目は、防災です。海に大変近いということで津波や高潮の課題は避けては通れません。起こる可能性が低いとして予想されるリスクに対応するだけでは大変勿体ないです。そこで、新しい清水区役所には、海を見張り&周辺施設利用者の安全確保のための海の防災機能に力を入れた最先端区役所を掲げます。利用者の安心を生むと共に津波対策の技術発信を行い、研究機関との連携や技術開発の中心地を目指すのです。素人の思いつく津波や高潮への対策としては、高所建物の建設やドローン、波観測用パイによる観測、周辺の船や水上バスからの波の高さ情報連携、湾の入り口となる三保での波情報の取得が考えられます。また、ここに建てた場合の利点としては、津波のない大地震の際に海や陸からの物資拠点となれることや、葵区の庁舎に甚大な被害があった時のためのセカンド庁舎としての役割も担えます。				○	地震・津波に対する考え方、庁舎の役割については、以下の市HPに考え方の詳細を公表していますので、ご参照ください。 <2025年11月21日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1121.pdf <2025年11月25日 市長による記者説明> https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/56916/kisyasetsumei1125.pdf	
				170	まちづくり 交通	2	▼2つ目は、地域開発です。お金を使う際にはタイミングが重要です。今、清水駅周辺には、新しい病院や魚市、船着場が整備されたとともに、サッカースタジアム建設の話があります。この場所に市が活用できる土地を広場として残しておくのは勿体無いと思います。ホテルや県と共同の防災施設や県立図書館、商業施設などを合わせられるのではないかと思います。病院や区役所があることで、平日でも人が見込めます。また、サッカーなどのイベントがあればさらに集客が見込めます。病院利用者は、待ち時間の間に区役所での用事を済ませられます。区役所利用者は、交通の利便性がよくなるとともに寄り道ができます。人の往来が増えることで、商店街への呼び込みもやすくなります。交通の選択肢が増えるので、市の駐車場管理費を減らすこともできます。また、人が増えることで、JRIによる清水駅自体の開発も期待できます。また、清水区には三保があり、この地域を静岡市にはない「リゾート地区」にできれば、遊べる商業施設ドリブラとリゾート地の三保、交通拠点となる清水駅を水上バスや路線バス(ゆくゆくは空飛ぶ車や自動運転のバス)で巡るルートへと発展し、清水区の経済圏を大きく広げられる可能性があります。さらに人通りが増えることで、道の整備を進めることにより、利便性と津波などの災害に対応した道路になるといいます。旧清水庁舎の場所について、道路が整備されているため、大きな商業施設や企業誘致にも使えるかもしれません。他に付け加えると、区役所の警備に伴い、周辺の病院やスタジアム、商店街などの治安維持にも生かせるかもしれません。				○	まちづくりの基本的な考え方としては、国において「人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要」として、コンパクト・プラス・ネットワークを推進しています。 清水においては、旧清水市の人口が1975年(昭和50年)をピークに減少していることからまちの再生は一刻を争う状況です。そのためには、交通の結節点であるJR清水駅周辺に庁舎を含む公共サービスや都市機能を集約し、この地区の経済を活性化させていくことが清水のまちづくりについての基本的な考え方です。 また、ENEOS社用地については、2月17日の市長記者会見でその利活用の方針を発表したところで、いただいたご意見は市の方針とおおきなところで合致しており、より具体的なお提案として今後の参考とさせていただきます。 なお、新庁舎と合築する民間機能については、まちづくりや防災の観点から、専門店、スーパー、飲食、物産店、オフィス、産業支援関連施設、医療福祉サービス、宿泊施設が望ましいと考えております。今後、事業者選定にあたり具体的な機能を検討してまいります。	
				171	要望	2	▼最後、3つ目は職員の働きやすさの改善です。通いやすさアップ、開発地域近くにあるやりがいアップ、広い会場が近く、食事処多数、病院が近いなど、働きやすさが改善されることで生産性の向上や休職者の減少、職員求人への増加が見込めると思っています。	○					職員の執務空間については、多様な働き方に合わせた機能備え、デジタル技術と最適な働き方を高次元で融合し、解放された時間でサービスの質を高め、「業務効率化による行政サービスの充実」を実現する計画としています。